

永遠の真理

ETERNAL TRUTH

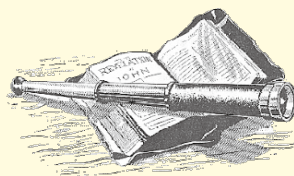
「あなたは
キリストを
知っていますか」

2010年 1月

「すべての人の手に届く賜物」 「印するメッセージに関する『新しい光』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)



目次

今月の聖書勉強

「あなたはキリストを知っていますか」・・・ 4

朝のマナ

「神の民のための賜物」・・・・・・・・・・・・ 10

すべての人の手に届く賜物

現代の真理

「印する働き」・・・・・・・・・・・・ 42

印するメッセージに関する「新しい光」

教育へのメッセージ

「子をその行くべき道に従って教えよ」・・・ 45

年令、性格、気質を考慮する

健康へのメッセージ

「健康と幸福」・・・・・・・・・・・・ 50

失業者や家がない人への助け (I)

力を得るための食事

「ティラミス」・・・・・・・・・・・・ 55

お話コーナー

「強盗を祝福したカント博士」・・・・・・・・ 60

今、神のみことばに従う決心をしなさい

イエスはお語りになったことばを実行することがどんなに大切であるかを驚くばかりはつきりした例話をもって示し、山上の垂訓を終えられた。……

わたしがあなたがたに語ったことばを受け入れて、それらを品性と生活の基礎とする者は、これらの、家を岩の上に建てた人々のようであるとイエスは言われた。……

わたしたちはキリストのみことばに従うことによってキリストの上に建てるのである。義人であるということは、単に義を楽しむ者ではなく、義を行なう者のことである。……

信仰とはキリストのみことばを行なうことにある。行なうのは、神の恵みを得るためではなく、全くそれに値しないのにわたしたちが神の愛の賜物を受けたからである。キリストは、人間の救いを単なる告白によるものではなく、義の行ないに現わされる信仰によるものとされたのである。単に言うだけでなく、行なうことが、キリストに従う者に期待されている。品性が築かれるのは行為によってである。「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である」(ローマ 8:14)。心にみたまが触れる者ではなく、時々、みたまの力に屈伏する者でもなく、みたまに導かれている者が神の子なのである。

あなたは、キリストに従う者になりたいと願いながら、どのようにして始めたらよいかわからずにいるであろうか。

……今、……あなたの知っている神のみことばに従う決心をしなさい。神の力、神のいのちそのものがみことばのうちに宿っている。あなたがみことばを信仰をもって受け入れる時、それはあなたに服従する力を与える。あなたの持っている光に従えば、もっと大きな光が来る。あなたは神のみことばの上に築いているのであって、あなたの品性は、キリストの品性に型どって形造られる。……



続きは 44 ページ



あなたは本当に キリストを 知っていますか？

永遠の命は、イエス・キリストを知る時に始まります (ヨハネ 17:3)。今日多くのクリスチャンは、イエスを知っていると公言していますが、実際にはイエスを知らないのです。つまり、彼らはこのお方については知っていますが、「このお方」を知ってはいないのです。「わたしたちはある意味ではキリストを知っている。つまり、このお方が世の救い主であることは知っているが、これはそれ以上のことを意味する。わたしたちはキリスト・イエスにおける個人的な知識と経験を持たなければならない。このお方がわたしたちにとってどういう存在であり、またわたしたちがこのお方にとってどういう存在であるか、キリストの経験的な知識を持たなければならないのである。これはすべての人に必要な経験である。たとえば、わたしがだれかあなたがたのために得ることもできないし、またあなたがわたしのために得ることもできない。わたしたちのためになされるべき働きは、神の聖霊が人の思いと人の心に明らかにしてくださることによってなされねばならないのである。心がきよめられ、聖化されなくてはならない」(この日を神と共に 213)。

どの子供も、状況や時にかかわらず、自分がどんなに元気でも病気でも、強くても弱くても、うれしくても悲しくても、自分の父親と母親を信じ、信頼し、より頼んでいます。なぜだかわかりますか？それはその子が自分の父親や母親を「知っている」からです。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつ

かわされたイエス・キリストとを知ることあります」とイエスは言明なさる。これらの言葉は多くを意味している。わたしたちが神を知ることができるのは、ただキリストを知ることによってのみである。神から遣わされたお方は、これらの言葉に耳を傾けるようにすべての人に訴えておられる。これらは神のみ言葉であって、すべての人がこれらに注意を払うべきである。なぜなら、それらによって彼らは裁かれるからである。救われるようにキリストを知ることとは、霊的な知識によって命を得ることであり、このお方のみ言葉を実行することである。これがなければ、他のことはみな無価値である。キリストがこの世に来られたのは、御父をあらわすためであった。なんとという忍耐、なんとという憐れみ深い優しさ、なんとという神聖な同情、なんとという堅固な目的をこのお方は表されたことであろう！このお方は弱ることも、落胆されることもなかった。このお方は純潔そのものであられ、このお方の愛は比類がなかった。一步ごとにこのお方は自己否定と自己犠牲を実行された。ご自分の死において、このお方は神と人の間の和解の啓示であられた。わたしたちの性質をとられることによって、このお方は永遠にわたって、ご自分をわたしたちに結び付けてくださった。このお方はわたしたちの代表であり、頭であられる。このお方は、今も、そして永遠にわたって人類の人性をまとい、神のみ前にわたしたち人類を代表してくださるのである。この方は御父の前に、ご自分を受け入れるすべての人の完全な義を嘆願してくださる。罪人は、恵みと真理に満ちたありのままのイエスを見なければならぬ。わたしたちを最初に愛してくださったお方、万人にぬきんで、ことごとく美しいお方を知る人々は、天の平和を感じるようになる。なかなか消えなかった疑いがすべて、一掃される。彼らの心は神聖な愛に燃え、彼らの品性は変えられるのである」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 1 月 27 日)。

「キリストのみ言葉を研究することによって、わたしたちはこのお方を知るすべての機会を得るのである。……わたしたちはキリストを知っているだろうか。あるいは、このお方のみ声は各時代を経て、わたしたちのところにまで悲しげに聞こえてくるであろうか、『こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか』。わたしたちの信仰の性質はどのようなものであろうか。それは、キリストに群がり、押し寄せる群衆の信仰と同じであろうか。あるいはこのお方に触れることによって癒された女の信仰のようであろうか。彼女は、群衆をかきわけ自分の道を急ぎながら、『せめて、み衣にでもさわれば、

なおしていただけるだろう』と言った。そして、キリストは群衆の不注意な接触と信仰の接触をどれほどすばやく識別なさったことであろう！キリストとのわたしたちの関係はどうであろうか。それはこのお方に群がり、押し寄せていながら、このお方に信仰によって触らないために、何の益も受けていない人々の信仰によって例証されているであろうか。

多くの人々は、嘆かわしいほどキリストを知らない。なぜなら、彼らは不義を喜んでいるからである。群衆のように、彼らはたえずキリストに触っているが、何の力も受けない。なぜなら、彼らがこのお方を知ろうと決心しないからである。彼らは自分自身の傾向に従いたいと望んでいる。彼らは自己否定を実行しなくてもキリストに従うと公言できると思うときは、キリストの側にいる。しかし、彼らが自分自身を否定するように要求されると、もはやこのお方に魅力を感じないのである。彼らはその一連の行動によって、わたしはあなたの道を望みません。主よ、わたし自身の道を望みます、と言うのである！



今日、自分たちの主を知るあらゆる機会がありながら、なお『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい、わたしたちは満足します』という者のうちに数えられているのはだれか。個人的な経験に関するかぎりキリストについて無知な人々について、わたしたちは何とすることができようか。神の生ける神託は、あなたの手の内にある。聖書を調べなさい。なぜなら、それはキリストを証しているからである。もしあなたが本当にこのお方の知識を強く望むのであれば、それを得ることができる。聖書を調べなさい。なぜなら、正しく知ることが永遠の命であるお方を、あなたは知ることができるからである。このお方を眺めなさい。なぜなら、眺めることによって、あなたはこのお方のみ言葉に従うことができるからである。隠された宝石のように、探り続けなさい。そうすればあなたは霊的に富むようになる。キリストのみ言葉を瞑想しなさい。そしてこのお方が自分にとってどういうお方かを学びなさい。あなたがこのお方に告白し、このお方を掲げ、このお方について語るとき、あなたはこのお方を

信じる信仰を得るようになる。そしてこのお方の恵みの真の管理職になりたいとの熱烈な思いに満たされるようになる。

わたしたちは、自分たちに与えられた光にしたがって、自分たちの救い主を評価するであろうか。わたしたちはキリストの友であろうか、敵であろうか。この問題はわたしたちの永遠の利益にかかわっている。わたしたちは自分たちの召しと選びを確かなものにしなければならない。わたしたちは揺れ動く偶然的な信仰に信頼するわけにはいかない。わたしたちはたくみに考案された作り話に従っているのではないと言えなくてはならない。キリストはわたしたちの個人的な救い主であられる。そしてこのお方は、わたしたちがこのお方の経験的な知識をもたないかぎり、そうなれないのである。このお方についての表面的な知識では役に立たない。わたしたちの知識は实际的でなくてはならない。その知識がわたしたちをこのお方に似た者にしなければならない。

キリストは心の戸に立って、わたしに戸を開きなさい、と仰せになる。しかし、このお方はだれに対しても無理強いはなさらない。わたしたちはこのお方のみ声を聞いているであろうか。わたしたちの誇りはこのお方の神聖な同情と憐れみ深い愛によってへりくだり、征服されているであろうか。心の戸を開きなさい。なぜなら、キリストが入ろうと待っておられるからである。このお方は『見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはそこにはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう』と仰せになる。イエスを眺めなさい、誘惑され、試みられている者よ。なぜなら、このお方は近くにおられ、ご自分の贖いの憐れみと恵みによって、あなたを助けようと待っておられるからである。このお方を見続けなさい。そうすれば、あなたはこのお方を知るようになる。このお方のみ名はすべてのクリスチャンの尊い相続権である。このお方の模範を研究し、実践すべきである。それによって日常生活が高められ、洗練され、純潔にされる。その神聖な力によって、もっともつましい毎日の義務さえも明るくされる。疑いは義の太陽に明るい光線の前に消える。栄光の望みなるキリストは、あなたのうちに形づくられているであろうか。だれか他の人がキリストを知って、このお方を自分の指導者だと告白しても、あなたには何の役にも立たない。あなたは自分でキリストを知らなければならない。あなたはサマリア人たちと共に『わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである』

と言えるようなこのお方の知識を自分のものとしなければならない。あなたはパウロと共に、『わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたはわたしがおゆだねしたものを、守って下さることができると、確信している』と言えなくてはならない」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 2 月 3 日)。

わたしたちのクリスチャン経験はどうでしょうか。わたしたちは本当に神の子でしょうか。あなたは本当に、いつでもどんなことでも、イエスを信じ、信頼し、より頼んでいますか。あなたは罪とその影響力から分離する努力において成功していますか。世とその娯楽があなたを魅了してはいませんか。義認と聖化の問題において、あなたの生活はどうですか。あなたは一片の疑いもなく、イエスが再臨なさるときに、あなたを家に連れて行ってくれると確信していますか。あなたはイエスが自分の救い主であられると、また「わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう」と確信していますか(コロサイ 3:4)。

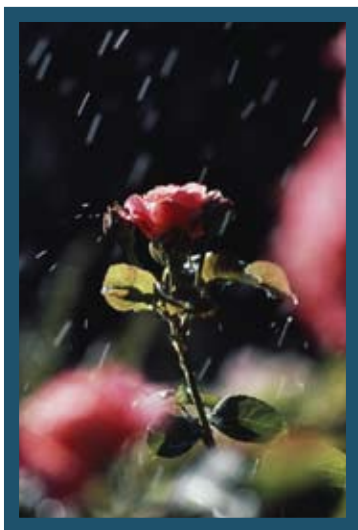
これらのすべてに対して満足のいく答えは、イエスを知ることによって、またこのお方と自分たちの関係を通して得られます。わたしたちが本当にイエスを知るとき、子供が自分の母親や父親にするように、いつでも何であっても信じ、信頼し、より頼むことは難しいことはありません。またわたしたちの良心

は罪を犯すことを許しませんし、許すことができないのです!「すべて神から生れた者は、罪を犯さない。神の種が、その人のうちにとどまっているからである。また、その人は、神から生れた者であるから、罪を犯すことができない」(ヨハネ第一 3:9)。「神と、神がつかわされたイエス・キリストを体験によって知ることは、人間を神のみ姿に変えるのである。これは、人を自己を治めるものにする。低い性質の衝動と欲望とは、高度の意志の力に支配されるようになる。そし



て、それは、また、彼を神の子すなわち、天国の相続人とし、無限の神との交わりに入れ、宇宙の豊富な富を開いて見せるのである」（キリストの実物教訓 90）。

そうです、小さい男の子も、女の子も、若い青年男女も、父親も母親も、生徒も教師も、信徒も牧師も、みな本当に、イエスはどなたであるかを知る必要があります。そしてこのお方を知ることがわたしたちの最大の特権です。「神を知ることがわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることのない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる」（各時代の希望下巻 150）。「経験的な知識によってこのお方を知っているすべての人は、このお方の模範に倣う（コピーする）。彼らは、世との友情を求めず、クリスチャン品性の完全においてキリストの模範に倣い、神と共に働く同労者になるという高く聖化された大志を持って、たえず高く、さらに高く上ろうと努力する」（エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 860）。「もしあなたが悩みの時を耐え抜きたいのであれば、あなたはキリストを知らなければならない」（レビュー・アンド・ハラルド 1892 年 11 月 22 日）。「すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いて」（テモテ第一 4:10）。聖書はイエスの救いの働きの時制を強調しています。「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変ることがない」（ヘブル 13:8）。「今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神が仰せになる、『わたしはアルパであり、オメガであり、始めてあり、終わりでである』。」（黙示録 1:8 英語訳）。



そうです！わたしたちは本当にイエスとこのお方の働きを知る必要があります。このお方のわたしたちのための贖いの働きを、とくにこのお方のきのうの犠牲、きょうのとりなし、そしてあしたの再臨を知る必要

続きは 44 ページ

「神の民のための賜物」

Gifts for God's People



1 月 すべての人の手に届く賜物

源へ行こうではないか！

「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。」(ヤコブ1：17)

神は愛である。太陽の光のように、愛と光と喜びは、神からすべての被造物に流れ出る。与えることが神のご性格である。神の生命そのものが無私の愛のほとばしりである。」(祝福の山 95)

自分本位の隣人は、休息が妨げられないために、切なる願いを聞き入れる。しかし、神は与えることを喜ばれる。神はあわれみに満ちたお方で、信じて神に来るものの願いを聞こうと切望しておられる。神がわたしたちにお与えになるのは、わたしたちが他に奉仕するためである。そして、その奉仕によって神のようになるためである。(キリストの実物教訓 117)

神は、ご自分の子らが彼らを通して、世に神の恵みを表すことができることを請うようにと、彼らにお望みになる。彼らがご自分の勧告を求め、ご自分の力を認めるようにと望まれる。キリストはご自身の命を与えたすべての者にむかって、愛に満ちた要求をなさる。キリストが、この地上でご自分の品性を反映するすべての者のために用意しておられる喜びにあずかりたいのであれば、このお方のみ旨に従わなければならない。自分の弱さを感じることはわたしたちにとってよいことである。そのときわたしたちは悪の力に対して日ごとに戦うために、御父がご自分の子らに与えようと望んでおられる力と知恵をもとめるからである。

教育、訓練、経験ある人々の勧告はみな欠くことはできないが、働き人はいかなる人の判断にも全く頼ってしまうべきではないことを、学ばなければならない。(教会への証 9 巻 284)

主はわたしたちにご自分の恩恵を与える義務があるわけではない。けれども、もしわたしたちが聖書の中に記されている条件に従うなら、契約におけるご自分の分を果たすと誓っておられる。人は度々約束をするが、それを実行しない。人を信頼するのは折れた葦に寄りかかるようなものであることに、わたしたちは気づく。しかし主はご自分を信じる魂を決して失望させたりはなさらない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889 年 12 月 16 日)

目的をもって与えられた命

「主なる神は土のちりて人を造り、命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。」(創世記 2:7)

命という神の無償の賜物を持つ者として、わたしたちは有用さの最高にまで達するために全力を尽くさなければならない。健全な体によく調和の取れた思いを持たない人々は、自分たちの生涯の働きを果たせない。(原稿 10 巻 56)

命はわたしたちが所有しているタラントを賢く発達させるために与えられている。わたしたちの機会が大きければ大きいほど、すべての良い賜物の与え主への責任も大きくなる。わたしたちは神の所有であるから、自分の行動すべてについてこのお方に申し開きをしなければならない。もしわたしたちの生涯に気高く無私の行動がないとすれば、それらはこお方の目にどれほど哀れなものに映ることであろうか。もし怠惰のうちに、快楽を求め、不真面目に過ごしてきたとしたら、どうであろうか。

アダムは全地の王として、栄光に満ちたエデンに置かれた。しかしなお、彼にはなすべき仕事を与えられた。創造主は園を手入れし整えるようにと彼に命じになった。このように神の知恵は、罪のない人にとって仕事をするのが最善であるのをご覧になった。そうであれば堕落した人類にとって有益な労働に自分の時間を用いて、多くの誘惑への戸を閉じて悪の侵入を防ぐことはどれほどもっと必要であろうか。

することが何もない人々は、もっとも惨めな人間である。性癖と快楽への愛によって導かれるのは満足感を与えない人生であり、わたしたちはその中で何か物惜しみをしない行為、何か熱心で活動的な働き、世を祝福することをむなしく捜し求める。一日一日の記録を点検するとき、わたしたちは自分たちの口座に、利己的満足を超越した残高を見出せるようにすべきである。すなわち、自分自身を向上させ、同胞の益となり、神に受け入れられることを何かなしとげたことを確認すべきである。(健康改革者 1877 年 12 月 1 日)

受ける者はだれでも神に申し開きをし、自分のタラントを神の栄光のために用いなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1912 年 4 月 4 日)

完全な教訓

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」（詩篇 19：7）

最終決算の日にキリストは、ご自分が人間の贖いのためにご自身の命を与えることで果たされた大いなる働きを、彼らの前にお示しにはならない。彼らをご自分のためになした忠実な働きを彼らの前にお示しになる。これは何という無比の愛であろうか。このお方は、主の律法についての知的な知識は持っていないが、自然の事物の中で自分に話しかけている声に聞き従うがゆえに、律法が要求するまさにそのことを行なっている異邦人の働きにさえ言及される。聖霊が未開人の心の中にキリストの御霊を吹きつけ、彼が神の僕の味方となる時、心を活気づけるものが彼の性質に逆らい、彼の教育に逆らう。暗くなっている思いに働きかけている神の恵みは、人間の知恵によって教えを受けていない未開人の性質を和らげている。だから彼らのすべての残酷な行為においても、これらの教育を受けていない異教徒は、大いなる光と証拠を持っていながら、神のあわれみと譴責を拒んでいる人々よりも、もっと好意的な光の中で見ていただける。

キリストは未開人の心にご自分の恵みを吹き込まれるので、彼は真理と命のみ言葉を聞いて十分理解する前ですら、その伝道者の必要に奉仕する。神の僕に害を加えようと彼の周りに集まった群衆を見よ！しかし主はご自分の僕のために嘆願するようにと、一人かもしれないが、ある人の心と思いに働きかけておられる。そして軍事会議がそのクリスチャンの命を取ることを決定するとき、その未開人のとりなしは決定を覆し、彼の命は助かる。ああ、このひとつの行為のために未開人へと出て行く愛よ！審判でキリストはそのような者に仰せになる。「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」（マタイ 25：35、36、34）。（レビュー・アンド・ヘラルド 1898 年 9 月 20 日）

祝福である神の正義

「神よ、あなたの御座は、世々限りなく続き、あなたの支配のつえは、公平のつえである。」（ヘブル 1：8）

〔神〕は、宇宙の全住民が、最終的な反逆の打倒と罪の根絶において、神の正義を確信することを望んでおられる。このお方は、罪の新しい性質と恐ろしい影響とがはっきりと表され、それによってすべての者が神聖な統治の知恵と正義と間違いがないことを確信しよう意図しておられる。（聖書訓練学校 1908 年 12 月 1 日）

キリストの王国に関しては、良心の強制や無理強いは許されていない。血が流されたり、武力が用いられたり、神の国と神の義とを選ばない人を投獄するために牢獄が開かれたりしてはならない。キリストは真理を通して聖化された心の自発的な奉仕のみをお受け入れになる。（レビュー・アンド・ヘラルド 1895 年 3 月 26 日）

さばきの場面は全諸世界の面前で起こる。なぜなら、このさばきにおいて、神の統治の正当性が実証され、神の律法が「聖であって、正しく、かつ善なるもの」としてあらわされるからである（ローマ 7：12）。そのとき、一つ一つの判決が下され、すべての人にそれが宣告される。罪はその時には魅力的には見えず、はなはだしく忌まわしいものであることがありのまま見られるようになる。……

すべての行為は、小さくても大きくても、評価されることになる。ここでは、些細なことだと思われたことも、そのときにはありのまま見られるようになる。やもめのレプタ二枚が認められる。差し出された冷たい水一杯、訪問した牢獄、空腹なものに食べ物を与えられたこと——一つ一つのことがその報いをもたらす。そして、果たされなかった義務、利己的な行為が忘れられることはない。神のみ座の周りの公開された法廷で、それを行った時とはずいぶん異なる様相で現れるようになる。……

わたしたちが今表している品性が、わたしたちの将来の運命を決定している。天の幸福は、神のみ旨に一致することによって見出される。……神はだれが地上のご自分の王国の忠実で誠実な臣民であるかをご存知である。そして、天でなるとく、地上でご自分のみ旨を行う者が、天上の王家の一員とされるのである。（神のむすこ娘たち 361）

あわれみ

「主はあわれみに富み、めぐみふかく、怒ること遅く、いつくしみ豊かでいらせられる。」(詩篇 103:8)

神が人の子らの強情にこれほど長く忍び、人の子らの不従順を忍びつつ、彼らがご自分のあわれみにつけこんで、最も悪意のある供述でご自分に対して偽りの証をしつつ生きるのを許されるとは、わたしにとって驚くべきことである。しかし神の方法はわたしたちの方法とは違うので、わたしたちはこのお方の愛にあふれる寛容、優しいあわれみ、無限の同情に驚きはしない。なぜならこれがまさにこのお方の品性―怒ることおそく、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろうという間違えようのない証拠を与えておられるからである。(今日神と共に 187)

神はあわれみ深い。このお方の要求は道理にかなっており、そのご品性の優しさと慈悲心に調和している。(教会への証 2 巻 582)

もし、わたしたちが当然受けるような取り扱いを、主がわたしたちになさるなら、わたしたちは頑固で感謝を表さない子供のように多くの方法で罰せられないであろうか。しかしこのお方は辛抱強く、わたしたちの強情に応じてわたしたちを取り扱うことをなさらない。その代わりにわたしたちをご自身ならびに御子と協力するようにと申し出られる。その申し出を受け入れるすべての者は命を持つことができ、世界は福音の祝宴に招待される。(レビュー・アンド・ヘラルド 1895 年 9 月 24 日)

主はあわれみ深い。このお方はご自分の民を憎むからではなく、彼らが犯している罪を憎むので厳しく罰するのである。主は彼らを厳しく罰しなければならない。それは彼らが忠実へと帰ることができるためである。このお方は彼らを罰することが彼らとそのほかの者への警告となるよう計画しておられる。だれも闇のうちを歩く必要はない。だれも「わたしのどこに罪があるか悪いところを正確に言ってみなさい」という必要はない。こう言う人々にわたしは「祈りつつ調べなさい、そうすればわかるであろう」との主の言葉を伝える。

神の御言とその御霊の証のなかに与えられている警告と譴責が十分にはつきりとししないのなら、どのような言葉が回復と改革を引き起こすのに十分はつきりするというのだろうか。(上を仰いで 240)

〔主〕は罪を犯しているご自分の民が悔い改めるのを長く待っておられるが、それは彼らから鞭を取り除き、ご自身の平安と喜びで彼らの心を満たしつつ彼らに許しと愛を与えることができるためである。(パシフィック・ユニオン・レコーダー、1902 年 8 月 14 日)

保たれる

「あなたは、ただあなたのみ、主でいらされます。あなたは天と諸天の天と、その万象、地とその上のすべてのもの、海とその中のすべてのものを造り、これをことごとく保たれます。」(ネヘミヤ 9:6)

この世界に関して言えば、神の創造の働きは完成している。なぜなら「みわざは世の初めに、でき上がっていた」からである(ヘブル 4:3)。しかし神のエネルギーはまだご自身が創造されたものをささえることに発揮されている。これは一度動くように設定された仕組みがそれ自身に備わっているエネルギーによって活動が続けるのではなく、脈が打ち、呼吸が続くのではなく、一つ一つの呼吸、一つ一つの心臓の脈拍は「われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである」お方のすべてにゆきわたる気配りの証拠である(使徒行伝 17:28)。地が年毎に収穫を産み出し、地球が太陽の周りを回り続けるのは備わっている力によるのではない。神のみ手が惑星を導き、天をめぐる秩序正しい運行のなかでそれらを正しい位置に保っておられるからである。このお方は「数をしらべて万軍をひきだし、おのおのをその名で呼ばれる。その勢いの大きいなるにより、またその力の強きがゆえに、一つも欠けることはない」(イザヤ 40:26)。植物が生育し、葉が現れ、花が咲くのはこのお方の力による。このお方は「もろもろの山に草をはえさせ」、このお方によって谷は豊作となる。「林の獣は皆……神に食物を求める」、そして生きているあらゆる被造物は最も小さな昆虫から人間に至るまで、日々このお方のみ摂理の心配りに依存している。詩篇記者の美しい言葉の中で「彼らは皆あなた……を期待している。あなたがお与えになると、彼らはそれを集める。あなたが手を開かれると、彼らは良い物で満たされる」と述べている(詩篇 147:8、104:20、21、27、28)。神のみ言葉は自然の力を支配し、天を雲で覆い、地のために雨をお供えになる。……「彼が声を出されると、天に多くの水のざわめきがあり、また地の果から霧を立ちあがらせられる。彼は雨のために、いなびかりをおこし、その倉から風を取り出される」(エレミヤ 10:13)。(クリスチャン教育 195、196)

健康の度合い

「わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。」
(詩篇 42 : 11)

健康は祝福であるが、その価値を認めるものは少ない。しかし、知的、体的能力が力を発揮するには、体が健康でなければならない。わたしたちの感情は、身体の中に座を占めているから、身体も精神も最上の状態に保つようにして、わたしたちの才能を最高に活用しなければならない。

体力を減退させるものは、なんであっても、精神を弱め、善悪の識別力を弱める。だんだん善を選ぶ力がなくなり、正しいと知りつつ、それを行なう意志の力がなくなる。

身体の諸機能を誤用するならば、神の栄光のために用いることができるはずの寿命をちぢめ、神からゆだねられた仕事を果たすことができなくなる。悪い習慣をつづけたり、夜ふかしをしたり、健康を犠牲にしてまで食欲を満足させたりすることは、体を虚弱にする原因である。運動を怠ったり、心身を過度に疲れさせたりすると、神経系統の平衡が失われる。このようにして、自然の法則を無視したために寿命をちぢめ、奉仕ができなくなった人びとは、神に対して盗みの罪を犯している。彼らは、また、同胞からも盗んでいることになる。何を祝福する機会、すなわち神がこの世界に彼らをお送りになったたいせつな仕事を、自分自身で短縮してしまった。そればかりではなくて、その短い期間に果たし得たはずのことさえできなくなってしまった。こうして、わたしたちが有害な習慣のために、世界から善を奪うときに、神はわたしたちに有罪の宣告を下されるのである。

肉体の法則に反することは道德律に反することである。神は、道德律の創設者であると同時に、肉体の法則の創設者でもある。神は、人間にお任せになったすべての神経とすべての筋肉とすべての機能の上に、神の律法をご自分の手でお書きになった。であるから、わたしたちの体の組織のどの部分の悪用であっても、それは、その律法の違反になるのである。(キリストの実物教訓 322、323)

自然の美

「主よ、あなたのみわざはいかに多いことであろう。あなたはこれらをみな知恵をもって造られた。地はあなたの造られたもので満ちている。」(詩篇 104:24)

無限の力を持ち、大いなる恵みとあわれみと愛に富まれる神がこの地を創造し、生命と喜びで地上を満たされたことを自然が証明している。こうした、むしろまれた状態においてなお、万物は「大芸術家」の手のわざを表わしていて、どちらを向いても、わたしたちは神の声を聞き、神の恵みの証拠を見ることができる。

低くなりとどろく雷の荘厳な響きや、絶え間ない海の波の音をはじめとし、森の中にメロディーをひびかせる小鳥の楽しい歌声にいたるまで、自然のあらゆる声が神を賛美している。また地も海も空もすばらしい色彩をこらし、目のさめるような配合や、美しく調和した混合色のうちに神の栄光をながめるのである。いつも変らない丘は神の力を語り、緑の旗を太陽になびかせている木々や優美な花も、創造主の力を示している。褐色の地上を敷きつめている新鮮な緑は被造物の中で最も低いものに対する神の保護を物語っている。海の洞窟や地中の深い所に神の宝がある。海中に真珠をちりばめ、岩の間に紫水晶や緑玉を飾られた神は、美を愛されるおかたである。空にのぼる太陽はすべての被造物の生命であり、光である神を代表するものであり、地を飾り、天を照す、あらゆる輝きと美が神を物語っている。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 383、384)

すべての被造物は、神の完全さについて栄光を告げている。人間の利己心よりほかには、自分だけのために生きているものは何もない。空中を飛ぶ鳥も、地上を動きまわる動物も、すべて何かほかの生命のために奉仕している。どんな森の木の葉もどんな小さな草の葉も、それぞれ奉仕している。……花はかおりを放ち、その美しさをあらわして世の人々の祝福となる。太陽は光を放つてもろもろの世界をよこばせる。海はすべての泉のみなもとであるとともにまたすべての土地の水の流れを受け入れるが、それは与えるために受けるのである。海面から立ちのぼる霧は、地から芽が出るように、土地をうるおすために雨となってくだる。(各時代の希望上巻 2、3)

記された神のみ言葉

「主のことばは清き言葉である。地に設けた炉で練り、七たびきよめた銀のようである。」(詩篇 12:6)

わたしたちは不確かなことに信頼する必要はない。わたしたちは父祖たちからよりはむしろ、神の御言からこのお方のことを学ぶ。神を知ること、これは永遠の命である。聖書が神の靈感を受けた言葉であることはなんと感謝なことであろうか。昔の聖なる人々は御霊に動かされたときこの御言を書いた。神はご自分の御言を人間の記憶の中に保存し、口述の伝達や言い伝えによる公表で、各世代に伝えようとはなさらなかった。もし神がこうなさったなら、御言は徐々に人間によって付け加えられていたであろう。わたしたちは靈感によらないものを受け入れるようにと要求されていることであろう。記された神の御言葉のゆえにこのお方に感謝しよう。

御言について書かれた注解書はすべてが一致しているわけではない。それらはしばしばお互いに対立する。神はわたしたちがそれらに導かれるようにとは仰せにならない。わたしたちが扱わなければならないのは神の御言である。すべての者はこの御言を自分自身のために探ることができる。そしてこの尊い書の教えが不変のものであることを知ることができる。人間の意見はそれぞれ異なるが、聖書は常に同じことを言う。神の御言は永遠から永遠に至る。

聖書は牧師や教育のある人々のためにだけ与えられたのではない。あらゆる男女、子供が彼自身、あるいは彼女自身のために聖書を読まなければならない。あなたのために聖書を読むのを牧師に頼ってはならない。聖書はあなたのための神のみ言葉である。貧しい者は金持ちと同じだけ聖書を必要としており、教育のない者は教育のあるものと同じだけそれを必要としている。そしてキリストはこの御言を非常に分かりやすくしておられるので、だれもつまづく必要はない。粗末な家に住むものは世が今までに知っている最も賢明な教師、王、統治者、政治家、世で最高の教育を受けた者もこのお方より偉大ではないお方によって書かれた御言を読み、理解しよう。

探るとは失われている何かを勤勉に探すことを意味する。隠れた宝を自分で探しなさい。この働きを牧師に任せてはならない。あなたは神の御言に無知である余裕はない。(上を仰いで 52)

時

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終りまで見きわめることはできない。」(伝道の書 3：11)

時はあらゆる人間に責任をもたらす。そして青年は、神が彼らに行うようにと与えておられる働きを成就することに思いと身体能力を用いるべきである。彼らは主人であるお方の奉仕で善を行うことに毎時間を用いるようにと要求されている。過ぎ行く一日一日はわたしたちの魂が愛するお方にお会いするその時へとわたしたちを近づけている。この現在のかなたに永遠の未来がある。今はちょうどテストと試練のときである。今は恵みの種まきと実りの収穫のときである。時は非常に尊い。日々、各週は一年を構成しており、その日々が過ぎると、未来の生涯への準備に一日、一週間、一ヶ月が減っていつている。しかし幾千もの人々が、尊い時間をあたかも価値のないものであるかのように不注意に、うかうかと無関心に、責任を担う必要も感じず、ぐずぐずと過ごしている。この娯楽や、この小旅行で、時が過ぎていくと彼らは言う。しかし、人生とは、そういうものではない。時は神に申し開きをしなければならないタラントである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1899 年 1 月 10 日)

キリストは「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」と命令しておられる。幾千の人が日々、飢饉、流血、火災、疫病のために減んでいつている今日、同胞を愛する者は、その益となるように心がけ何一つ、むだにしたり、不必要に使用したりしないのが当然である。

むだに時間を使うことも、むだに考えることも不正である。また自分の利益のためにだけ時を費すことは、その時間をすべて失うことになる。一刻一刻を尊び、これを正しく用いるならば、自分にとっても、社会にとっても、なさねばならないことにすべて時間があるはずである。金銭を費すとき、あるいは時間、体力、機会を使用する場合、すべてクリスチャンは神に指導を仰がなければならない。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい」(ヤコブ 1：5)。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 185)

機会

「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」(コリント第二 6:2)

延ばさないように気をつけなさい。罪を捨てることを延ばし、イエスによって心をきよめていただくことを遅らせてはならない。この点で幾千という人が誤り、永久に滅びてしまった。わたしは今にも人生の短いことや、はかないことを述べようとは思わないが、ここに人の気づかない恐ろしい危険がある。それは、神のみたまのささやきに従うことを延ばし罪の生活をつづけていくという恐ろしい危険である。これは実に恐ろしいことである。たとえどんなに小さくても、罪にふけることは、永遠に失われる危険をおかしているのである。わたしたちが打ち勝たないものは、わたしたちを打ち破り、ついにはわたしたちを滅びにいたらせるのである。(キリストへの道 38)

わたしたちが将来におけるもっと大きな働きを成し遂げる希望をもって、善をなす現在の機会にぐずぐずするのは神に喜ばれない。一人ひとりが自分の関心を念頭に置き、自分の判断にまったく信頼するのでもなく、み摂理の導きに従わなければならない。ある者は神が成功させるおつもりであるところに失敗を見る性質があり、神と天使が神の真理に栄光を与える準備ができているのを、他の者がもっとはっきりとした視力で、見ることができるそのところに、巨人と城壁に囲まれた町々しかみることができない。(教会への証 5 巻 392)

あなたが病気でであろうと健康であろうと、裕福であろうと貧しかろうと、神の栄光にだけ目を留めて生きようと決心し、喜びに満ちた心で、神の開かれているみ摂理に従うことを学ぶとき、貴方はどれほどの勝利を得ることであろうか。(同上 4 巻 221)

わたしたちは個人個人思いと身体の生来備わった力を最高に用いないのであろうか。あらゆる能力を訓練によって強め、委ねられたあらゆるタラントを注意深く大事にしないのだろうか。また若者、経験のない者、年老いた者、経験のある者がわたしたちとの交わりによって益を受けるそのような方法で生きようとししないのだろうか。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 1 月 23 日)

神に奉仕しようと捧げるあらゆる機会は向上しなければならない。わたしたちの賜物は用いることによって増し加わる。(原稿 17 巻 203)

物と質的な財産

「イエスは彼〔その金持ちの青年〕に目をとめ、いつくしんで言われた、『あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。』」（マルコ 10：21、22）

〔その金持ちの青年〕にとって富は、名誉であり、力であった。だから彼の財産が莫大であったがゆえに、それを捨てるというのはほとんど不可能であるように思えた。

世を愛していたこの人は、天国を望んでいた。しかし、彼は自分の財産を持ち続けることを望み、金と力を愛するがゆえに永遠の命を放棄した。ああ、なんと悲惨な交換であろうか。しかしながら神の戒めをすべて守っていると公言する多くの者が同じことをしている。

金銭に執着する人にとって、ここに富の危険がある。富が増すにつれ、その人にとって気前のよくふるまうことが難しくなる。自分の富を減らすことは自分の命を減らすことのように思えるのである。だから彼は地上の財産を持ち続け、それを増やすために、不死という報酬の魅力に背を向ける。彼が戒めを守り続けていたなら、彼の世的な財産はそれほど多くはなかったはずであった。自分自身のために陰謀をたくらみ骨折っている間、彼はどのようにして心をつくし、思いをつくし、力をつくして神を愛し、自分を愛するように隣人を愛することができようか。貧しい者の困窮が要求するとき、彼がその必要に応えていたなら、もつと幸福であり、天に宝をはるかに多く蓄え、地上の宝に愛情を注ぐことがはるかに少なかったことであろうに。

キリストはわたしたち一人ひとりに財産および感化力というタラントを委ねておられるので、ご自分の僕と清算をするために来られるとき、すべての者は自分に委ねられたタラントの用途について最も厳密な報告をするようにと命じられる。兄弟姉妹方、貴方はどのようにその調査に耐えるのであろうか。あなたは主人であるお方の前に元金と利子を置き、自分がこのお方の奉仕に忠実で辛抱強いだけでなく思慮深い働き人であることを示しつつ、このお方のタラントを倍にしてお返しする用意ができていようか。（レビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 6 月 23 日）

健全な思いという賜物

「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と
慎みとの霊なのである。」(テモテ第二 1:7)

人は華々しい知性を持ち、天賦の才能で金持ちになることができる。しかしこれらはすべて神、彼の造り主に与えられたものである。神は理性という賜物を取り去ることができ、人は一瞬に野の獣の段階にまで落ちたネブカデネザルと同じになる。(セレクトッド・メッセージ 1 巻 298)

愛するヘンリーへ。わたしは恵まれていない子供、すなわち思慮のない子供のすることを目にするたびに心に痛みを覚えてきた。彼の肌はきれいで、目鼻立ちは整っているが、彼には知性がない。愛するヘンリー、わたしの愛する息子たちが知性において祝福されていることを、わたしはどれほど主に感謝していることか！わたしのヘンリー、たとえ家一杯の金貨があっても、わたしはあなたがあの哀れな少年のようであって欲しくはない。あなたは主が申し分のない健康と理性をもってあなたを祝福してくださっていることに、どれほど感謝をしなければならないことか。

もしあなたが高潔で雄々しい進路を取ってさえいるなら、それだけでわたしたちはうれしく思う。わたしたちの愛する子供たちは、わたしたちにとって尊い宝石である。わたしたちはあなたが生まれるとすぐあなたを神にお捧げした。あなたの気質が和らげられるようにとあなたのごく小さいときからあなたのために熱心に祈った。愛するヘンリー、あなたがわたしたちのうでの中で人事不省であったとき、わたしたちは泣いた。あなたに正しい霊を入れてくださるようにと、主ご自身の檻に導いてくださるようにと、わたしたちは嘆願した。そして今わたしたちの最も大きな不安はあなたのことである。わたしたちはあなたを愛しており、あなたが救われるようにと願っている。あなたの品行が義務という意識で支配された正しいものであるように、また強いられてではなく、そうしたいから正しいことを行なう、あなた自身の決心、原則をあなたが持つようにと願っている。なぜなら正しいことを行なうには苦痛も自責の念も良心の咎めもなく、正しいことを行なっているという喜びを与える意識があるからである。

愛するヘンリー、あなた自身の過ちに気付きなさい。……これが正しいことか、悪に導いているのではないか、不忠実に導いているのではないか、欺き、あるいは偽りに導いているのではないか、自分はこれをした後で以前と同じように幸せに感じるだろうかと自分自身に問いなさい。

理性の力

「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ 1:18)

神が地上に造られたすべての被造物のうちで人だけが反抗的である。けれども人は聖なる律法の要求を理解する理解力を所有しており、違反することへの罪悪感を感じる良心があり、服従の平安と喜びを感じる良心もある。神は人を従うか従わないか道徳的に自由に造られた。永遠の命という報いすなわち永遠の重い栄光は神のみ胸を行う人々に約束されている。その一方でこのお方の律法に公然と反対するすべての者には、差し迫った神の怒りが及ぶ。

神は人に与えておられる知性を彼らが用いることを望んでおられる。ご自分のために彼らがあらゆる理性の力を用いるようにと望んでおられる。良心は、指定された最高の地位につくべきである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900年 11月6日)

神の統治は、サタンがあらわそうとするような盲目的な服従、道理の合わない支配ではない。それは知性のある者、良心のある者への訴えである。「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう」は、創造主から造られた者への招待である(イザヤ 1:18)。神は被造物の意志を強制なさることはない。このお方は喜んで理性的に捧げない尊敬をお受けになることはできない。単なる強制された服従は思いや品性の真の発達をすべて妨げ、人を単なる機械的に行動する者とする。そのようなことは創造主のご目的ではない。ご自分の創造の力における最高傑作である人間が、最高度にまで発達を遂げることをこのお方は望んでおられる。ご自分の恵みによってわたしたちにもたらそうとする祝福の最高点をわたしたちのまえに置かれる。このお方はご自分にわたしたち自身を捧げるようにとお勧めになるが、それはわたしたちの内にご自分の意志を働かすことができるためである。罪の奴隷から自由になることを選び、神の子としての栄光ある自由を分かちあうことが、わたしたちには残されている。(キリストへの道 54、55)

救い主の賜物

「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」(マタイ 1:21)

わたしたちもニコデモのように、自分の生活は正しくて道徳的にもまちがっていないとうぬぼれ、ふつうの罪人のように、神の前にへりくだる必要がないと考えているかも知れないが、ひとたびキリストの光が心の中にさしこむとき、自分たちがどんなに汚れているかがわかるのである。またなにをするにも自分の利益ばかり考え、神に逆らい、日常のあらゆる行動が汚れていたことを悟るのである。そしてわたしたちの義は汚れた衣のようであって、キリストの血のみが罪の汚れより清め、かれのみ姿にかたどって、わたしたちの心を新たにすることを知るのである。(キリストへの道 32)

人の心から悪の支配力を断ち切ることができるのはただひとつの力であり、それはイエス・キリストの内にある神の力である。十字架に掛かれたお方の血を通してのみ罪からの清めがある。このお方の恵みだけがわたしたちの墮落した性質に、わたしたちが抵抗し、打ち勝つことができるようにする。(教会への証 8 巻 291)

心の貧しさを深く感じ、自分のうちに何もよいものがないとを感じるすべての者は、イエスを見上げることによって義と力を見出すことができる。……わたしたちは神の愛を受けるにふさわしくない。しかしわたしたちの保証人であるキリストはそれにふさわしく、また彼に来るすべての者を豊かに救うことがおできになるのである。あなたの過去の経験がどうあろうと、また、現在の状況はどんなに落胆させるものであっても、弱く、力なく、気落ちしたままでイエスに来るならば、わたしたちのあわれみ深い救い主は、遠くからあなたを迎え、その愛のみ腕をあなたにのばし、その義の衣をあなたに着せられる。イエスはご自身の品性の白い衣をわたしたちに着せて、父なる神に紹介される。イエスは父のみまえでわたしたちのために嘆願される。そしてわたしはすでに罪人の代わりになりました、このわがままな子をごらんにならないで、わたしを見てくださいといわれる。もしサタンがわたしたちの罪を責め、わたしたちを彼の餌食であると主張して、大声で訴えても、キリストの血はより大きな力をもって嘆願するのである。(祝福の山 10、11)

許し

「主よ、あなたがもし、もろもろの不義に目をとめられるならば、主よ、だれが立つことができましょうか。しかしあなたには、ゆるしがあるので、人に恐れかしこまれるでしょう。」(詩篇 130:3、4)

今日肉体の病気で苦しんでいる人で、ちょうどあの中風の人のように、「あなたの罪はゆるされた」とのみ言葉を切望している者が幾千人もいる。罪の重荷は、不安と満たされない欲望を伴って、病気の根底となっている。そういう人々は心をいやしてくださる方のごところにこなければ助けは得られない。キリストのみが与えてくださることのできる平安は、精神に活力を回復し、からだに健康を与えるのである。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 52)

動機は不純で心は不潔で、自分の生活は全く利己心と罪ばかりであることを知り、なんとかしてゆるされきよめられて、自由になりたいと望むのである。神と調和し神に似るにはいったい何をすればよいのだろうか。

あなたに必要なものは平和である。つまり天のゆるしと平和と愛を心にいただくことである。それは金で買うことも知識で達することも、また知恵で手に入ることもできない。自分の力では絶対に手に入れることは望めないのである。けれども神は、これを「金を出さずに、ただで……買い求」(イザヤ書 55:1)むべき賜物としてお与えになったのであるから、ただ手をのばしてそれをつかみさえすれば自分のものとなるのである。主は、「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ」(イザヤ書 1:18)。「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」(エゼキエル書 36:26)と仰せになる。

あなたは自分の罪を告白して、心よりこれを捨て去り、神に自らをささげようと決心した。であるから今、神のもとに行き罪を洗い去って新しい心を与えてくださるようお願いなさい。そして、神が約束なさったのであるから、そうしてくださると信じなさい。これはイエスのご在世の時にお教えになった教訓であつて、神がわたしたちに約束なさった賜物は受けるのだと信じるときに、わたしたちのものとなるのである。(キリストへの道 62、63)

清め

「ヒソプをもって、わたしを清めてください、わたしは清くなるでしょう。わたしを洗ってください、わたしは雪よりも白くなるでしょう。」(詩篇 51:7)

わたしたちは罪人である。過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身をきよくすることもできない。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしてくださると約束なさった。あなたはまずそのみ約束を信じ、罪を告白し、自らを神にささげて、神に仕えようと決心しなければならない。これを実行しさえすれば必ず神はそのみ約束を果してくださるのである。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださるのである。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされるのである。信ずるごとくなるのである。

いやされたと感じるまで待つてはならない。そして「信じます。いやされています。わたしがそう感じるからではなく、神がこれを約束されたからです」と言おう。

イエスは「なんでも祈り求めることは、すでにかなえられたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」(マルコ 11:24)と仰せになったが、このみ約束には条件が一つある。それは神のみ旨に従って祈るということである。けれども、わたしたちの罪をきよめ、神の子女としてきよい生活を送らせようとなさるのは神のみこころである。であるから、これらの祝福を願い求め、それを受けたと信じて神に感謝してもよいのである。イエスのもとにきてきよめられ、恥ずるところなくおきての前に立つことができるのはわたしたちの特権である。聖書にも「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない……これは……肉によらず霊によって歩く」(ローマ 8:1、4)とある。

であるから、わたしたちは自分のものではなく、価をもって買われたものである。「あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」(ペテロ第一 1:18、19)とある。神を信ずるこの簡単な行為によって、聖霊はわたしたちの心に新しいいのちをお与えになる。わたしたちは神の家族の子供として生れたのである。であるから、神はみ子を愛したもうと同様にわたしたちを愛してくださるのである。(キリストへの道 65～67)

告白の祝福

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、彼は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」(ヨハネ第一 1:9 英語訳)

自分の罪を認めて神の前にへりくだらない者は、神に受け入れられる最初の条件さえ果していないわけである。わたしたちが過去の罪のゆるしを味わっていない、ただ一つの理由は、心を卑くして真理のみ言葉の条件に従っていないからで、この点について次ようにはっきりと教えられている。罪の告白は、それが公のものであっても、個人的のものであっても、真心からのものであっても、十分に言い表わされなければならない。罪人に無理にしてい言わせるものではない。また、告白は軽率に不注意になされてはならない。ほんとうに、罪がどんなにいまわしいものであるかを認めていない人にしいるものでもない。心の奥底からわき出てきた告白は、限りないあわれみを持ちたもう神へ通じる。詩人ダビデは、「主は心の砕けた者に近く、たましいの悔いくずおれた者を救われる」(詩篇 34:18)と言っている。

真の告白はつねに、はっきり自分の犯した罪そのものを言い表わすのである。神にだけ告白すべきものもあるだろう。または、だれか害をこうむった人々に告白しなければならないものもあるだろう。あるいは公のものであれば、公に告白しなければならないこともあるだろう。いずれにせよ、告白はすべてはっきりとその要点にふれていて、犯した罪そのものを認めねばならない。(キリストへの道 46～48)

神のみ言葉には、悔い改めとけんそんの実例があげられているが、そこには罪の言いわけをしたり、自己を正しとするようなことの少しもない、真心からの告白の精神が見られる。パウロは、自分を弁護することなく、自分の罪をその恐ろしいままに描き、罪をいくらかでも軽くしようなどとは考えなかった。……

真に悔い改め、けんそんになった心は神の愛のいくぶんかを悟り、カルバリー十字架の犠牲を心から感謝してやまない。そして子供がやさしい父親に告白するように、ほんとうに悔い改めた者は神の前に自分の罪をみなもちぎたるのである。(キリストへの道 51、52)

何という友!

「世には友らしい見せかけの友がある、しかし兄弟よりもたのもしい友もある。」
(箴言 18:24)

〔イエス〕はわれらのとがを負われた。キリストはわれらの肩から荷をとって休ませてくださる。また心労や悲しみの荷も負ってくださる。キリストは、すべての思いわずらいをまかせるように招いておられる。彼はそのみ胸にわたしたちを抱いてくださるのである。

人類の長兄キリストは、永遠のみくらのそばに立って、救い主として彼を見あげるすべての人間をごらんになる。彼は、「罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである」(ヘブル 4:15)。だから、彼は人間の弱さも、わたしたちの要求も、またわたしたちの誘惑の力がどこにあるかも、体験によって知っておられるのである。恐れおののく神の子よ、キリストはあなたを見守っておられる。あなたが誘惑を受けておられるのならば、キリストはあなたを救ってくださる。あなたが弱ければ、強くしてくださる。無知であれば、知識を与えてくださる。傷つけられたならば、彼はいやしてくださる。エホバは「もろもろの星の数を定め」しかも「心の打ち砕かれた者をいやし、その傷を包まれる」(詩篇 147:4、3)。どんな心配ごとや試練があっても、その問題を神の前にうち明けなさい。あなたの精神は忍耐力をもって強められる。困惑や困難からぬけ出る道が、あなたのために開かれる。自分が弱く、力のないことを知れば知るほど、キリストの力によって、もっと強くなるのである。荷が重ければ重いだけ、荷を負ってくださるお方にこれをまかせて休むことがうれしいのである。

境遇は友と別れさせ、広い海の不安な水がその間に波うつかも知れないが、どんな事情も距離も、わたしたちを救い主から離すことができない。どこにいても、キリストはわたしたちの右に立ち、わたしたちをささえ保ち、擁護し、はげましてくださる。ご自分があがなわれた者に対するキリストの愛は、母が子を受する愛にもまさって大きい。「彼はわがためにその命を与えたまいしにより、われは彼により頼まん」と言って、その御愛に安んずることはわたしたちの特権である。

人間の愛は変るかもしれないが、キリストの愛は変ることを知らない。助けを求めてキリストを呼ぶならば、そのみ手はわたしたちを救うために伸ばされる。
(ミニストリー・オブ・ヒーリング 46、47)

わたしたちのための模範

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇 62:8)

キリストは水とヨハネの手から起き上がったのち、ヨルダンの岸へ上がり、祈りの姿勢でひざまづかれた。ヨハネの目はこの上なく深い関心と驚愕でキリストに釘付けになっていた。嘆願者としてこのようにひざまづいたお方を見上げたとき、彼の心は感動に揺り動かされた。キリストは両手をあげそのまなざしは天を刺し貫くように思われた。信者の模範として、このお方の罪のない人性は、メシヤとしての公的な働きを開始するに当たって、天の御父からの支えと力を嘆願した。イエスは熱心な祈りでご自分の魂をそそぎだされた。新しく重要な時代がこのお方の前に開かれつつあった。以前の平和な静かな生活はここで終わるのであった。子としてなすべき義務を果たしていた間、このお方は実業と骨折り仕事の生活のなかで幸福であった。このお方は子供時代、青年時代、大人の時代の人々にとって模範であられた。その行動は時間の重要さと厳粛さを感じておられることを示していた。試練、骨折り、闘争、苦しみそして死が行く手にあることをご存知であった。ご自分が負わなければならない責任の重さを感じて、今まさに新しい骨の折れる義務に携わろうとしておられた。人々を神から引き離したその罪深さとかたくなさを感じ、このお方は、ご自分のあわれみ深い伝道活動を認めて、ご自分が天から彼らにたずさえてこられた救いを受け入れる者がほとんどいないことを確信なさった。

天使たちはキリストがバプテスマで捧げられたような祈りを以前には聞いたことがなかったので、御父から御子へのメッセージを担う者になりたいと心から切望した。が、否、御父から直接その栄光の光が出る。(預言の霊 2 巻 60、61)

もしあなたが祈る心と声を見いだすなら、〔神〕は必ず聞き、あなたを助けるために腕が差し出される。祈りを聞き、他のすべての頼みが失敗するそのときに神がおられる。このお方はあなたの避けどころ、困った時のまさにそのときの助けであられる。(今日神とともに 184)

重荷を負う偉大なお方

「だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」（ペテロ第一 5：6、7）

〔一人びとりが〕 それを知っていようといまいと全ての者が疲れ、重荷を負っている。すべての者がキリストだけが取り去ることのできる重荷に圧迫されている。わたしたちが負っている一番重い重荷は、罪の重荷である。もしわたしたちがこの重荷を負うがままにほおって置かれるなら、それがわたしたちを押しつぶしてしまう。しかし罪のないお方がわたしたちの代わりになってくださった。「主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた」（イザヤ五三：六）。このお方はわたしたちの罪深さという重荷を負ってくださった。わたしたちの疲れた肩から重い荷を取り去り、休息をお与えになる。主はわたしたちの心配と悲しみという重荷も負ってくださる。このお方はわたしたちの思いわずらいを一切ご自分にゆだねるようにと招いてくださる。なぜなら、わたしたちを懷に抱いて持ち運んでくださるからである。わたしたちが神と顔と顔をあわせて立ち、自分たちが見られているように見、知られているように知るときに初めて、救い主がわたしたちのためにどれほど多くの重荷を負われたか、またこのお方に預けさえすれば、どれほど多くの重荷を喜んで負ってくださったかを知るのである。

わたしたち人類の長兄は永遠のみ座のそばにおられ、救い主としてご自分に顔を向けているすべての魂に目を留めておられる。このお方は経験によって人類の弱さが何であり、わたしたちの必要が何であり、誘惑の力がどこにあるかをご存知である。なぜなら「すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われた」からである（ヘブル四：一五）。「わたしのところに来なさい」というのがこのお方の招きである。あなたは自分が弱く、まったく無力であることを知れば知るほど、このお方にあって強くなる。「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった。主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである」（ヘブル二：一七、一八）。

人の愛は変わることがあるが、キリストの愛は変わること知らない。わたしたちが助けを求めてこのお方に叫ぶとき、そのみ手はわたしたちにむかって伸ばされる。（ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ一九〇二年四月一六日）

霊的支え

「あなたの荷を主にゆだねよ。主はあなたをささえられる。主は正しい人の動かされるのを決してゆるされない。」(詩篇 55 : 22)

キリストが野の花から学べといわれた教訓を忘れているクリスチャンが多い。彼らは、キリストの変わらぬご保護にたよらない。キリストは、人びとが重荷をキリストにゆだねないために、その重荷を負うことがおできにならない。世のわずらいというのは、救い主に援助と慰めを求めるようにすべきものであるにもかかわらず、かえって、人びとをキリストから引き離しているのである。(キリストの実物教訓 28)

自分の正体を悟るように導くのは、試練である。自分の本当の品性をかいま見させ、良い特性を養う必要を示すのは、誘惑の時である。神の祝福を信頼するクリスチャンはどこにいても安全である。都会にいても彼は墮落しない。会計課にいても彼は厳格な正直の習慣で目立つ。手仕事の店で彼の働きのどの部分も誠実に成し遂げ、神の栄光だけに目を留める。(預言の霊 4 卷 285)

あなたの重荷を他人に負わせることにより自分が息抜きができると考えてはならない。重荷を負ってくださるお方のところへすぐに行き、そのことを申し上げなさい。このお方はあなたの場合の状況に対応することができ、またそうしたいと思っておられることを信じなさい。あなたが悔悟の念を持って十字架の足元に来るとき、十字架につけられ、よみがえられた救い主の功績に信頼するとき、あなたはこのお方を通して力を受ける。あなたの無力な魂をまかせるとき、このお方はあなたに平安、喜び、力、勇気をお与えになる。そのときあなたはキリストがあなたにとってどれほど尊いお方であるかを他の人々に語ることができる。「わたしはこのお方を探して、このお方がわたしの魂にとって尊いお方であることを発見しました」ということができる。……

キリストの柔和とへりくだりを学ぶ人々は、またこのお方が愛したように互いに愛することを学ぶ。彼らは他の人々を批判し責めることを拒む境地へ到達する。他のだれも彼らのためにすることのできない働き、すなわちキリストに学ぶという働きが自分に委ねられていることを学ぶ。わたしたちが自分をそのみ手に委ねるとき、このお方はわたしたちの前に可能性と見込みを示し、誤っている人間よりも無限にたかいお方に助けを求めて行くようにとお命じになる。(上を仰いで 359)

天使の守り

「主よ、あなたは人と獣とを救われる。神よ、あなたのいつくしみはいかに尊いことでしょう。人の子らはあなたの翼のかげに避け所を得、」（詩篇 36：6、7）

わたしたちの天父はいかに恵み深く優しくご自分の民を取り扱ってくださっていることか！目には見えない無数の危険から彼らを保護し、サタンの微妙な悪巧みから守っておられる。さもなければ、彼らは滅ぼされてしまう。ご自分の天使を通じてのこのお方の保護する心配りはわたしたちの鈍い目には見えないので、わたしたちの親切で慈愛深い創造主がみ手の働きの内にもっておられる絶え間ない油断のない関心を熟考することも感謝することもしようとしな。そうであるからこのお方が日々わたしたちに与えておられる数多くのあわれみをありがたく思わない。（教会への証 3 巻 373）

サタンは今でも、海と陸の災害によって、できるかぎり多く人の運命を閉じ込めようとしている。このときに神の民の守りは何であろうか。それは天との生けるつながりである。もしわたしたちが有害な疫病から安全であり続けたいなら、目に見える危険、目に見えない危険から保護されたいのなら、神の内に隠れなければならない。イエスと聖天使の保護する心配りを確保しなければならない。この危難の時代に、主はわたしたちがご自分の前にへりくだって歩み、自分の罪を隠そうとする代わりに告白することを望んでおられる。（レビュー・ヘラルド 1908 年 11 月 19 日）

このように、どの時代にも、天使たちは、キリストに忠実に従う人たちの近くにいた。勝利したいと望むすべての人に対して、おびたしい悪の同盟軍が勢ぞろいするが、キリストは、目に見えないもの、すなわち神を愛するすべての人を救うためにそのまわりに天の軍勢が陣を張っているのを見させたいとお思いになる。天使たちの守りによって、われわれがどんなに目に見える危険や目に見えない危険から守られたかということは、永遠の光のうちに神の摂理が明らかにされるときまで、決してわからない。その時になってわれわれは、天の大家族が地上の家族に関心をもっていたこと、また神のみ座からの使者たちが、日々われわれの歩みにつきそっていたことを知るのである。（各時代の希望上巻 297）

誘惑に抵抗する力

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(コリント第一 10 : 13)

誘惑や試練のないことが、クリスチャン品性の発達のためにもっとも望ましいことではない。困難に会うことがほとんどない場合は、霊的怠惰というもっとも大きな危険の中にいることになる。あらゆる恵みに富まれる神は、ご自分の民が負うことのできない誘惑を受けることはなく、その誘惑を逃れる道を備えると約束しておられる。挫折と反対に絶えずさらされると、クリスチャンはますます用心深くなり、力ある助け手であるお方へますます熱心な祈りをするよう導かれる。神の恵みを通して耐えた途方もない試練の数々は、用心、忍耐、不屈の精神を働かせるように要求されるとき、その人にもっと深い経験、もっとも大きな霊的力強さを与える。(パウロの生涯からのスケッチ 300)

誘惑に襲われるからといってもっとも弱い者も失望しないようにしよう。かつて生きていた最高の人々はサタンとその代理人に激しく襲われた。わたしたちがその力に屈しないかぎり、誘惑は罪ではない。真理の武具は敵の火のような矢に対する確かな守りであることを証明する。

けれどもクリスチャンは不必要に自分を誘惑の道においてはならない。(ザ・サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 2 月 16 日)

誘惑は罪ではないことを覚えていなさい。人がどんなにつらい状況におかれようとも、誘惑に屈服せず高潔さを保ち続けるかぎり、なにもものもその魂を本当に弱くすることはできないことを覚えていなさい。あなたがたそれぞれにとって、命にかかわる最大の関心事は、あなた自身の守りのうちにある。あなたの同意がなければだれもあなたの関心事に損害を与えることはできない。あなたがサタンの矢に魂を開かないかぎり、彼の軍勢はだれもあなたを傷つけることはできない。断固として正しいことをするかぎりあなたは決して滅びることはない。あなた自身の中に思いの汚れがなければ、周囲の汚れはどれもあなたを汚し、汚染することはできない。(彼を知るために 248)

安全のために投資する

「主は、信心深い者を試練の中から救い出し」(ペテロ第二 2:9)

イエスは気高く純潔であつたが、わたしたちと同じようにあらゆる点において誘惑されたが、人が耐えるようにと決して要求されることのない強さと力で誘惑された。ご自分の成功した抵抗の中でこのお方は、わたしたちがそのみ足の後に従わなければならない輝かしい模範をわたしたちに残しておられる。もしわたしたちが自己を過信するか独りよがりであるなら、誘惑の力のもとに倒れるがままであろう。しかしイエスを見上げ信頼するなら、わたしたちは戦いの戦場で敵を打ち負かされた力を自分の助けとして呼び求める。そしてこのお方はあらゆる誘惑に逃れの道を作ってください。サタンが洪水のように来るとき、わたしたちは御霊の剣で彼の誘惑に立ち向かわなければならない。そうすればイエスはわたしたちの助け手となり、わたしたちのために彼に向かって旗を掲げてくださる。偽りの父は神の真理が燃えるような力で彼の顔に投げつけられるとき、震えおののく。

サタンは人々を神から引き離そうとあらゆる努力をする。そして宗教生活が仕事上の心配に飲み込まれるとき彼の目的を達する。彼は彼らの思いを仕事に没頭させることができるので、彼らは聖書を読むために、密室の祈りをするために、朝夕犠牲の祭壇で燃えるような賛美と感謝の捧げものをし続ける時間がない。大欺瞞者の策略になんとほとんどの者が気づいていないことであろうか! どれほど多くの者が彼の計略に無知なことであろうか! 兄弟がたが自ら進んで宗教上の集会を休むとき、神を思わず、敬神の念もないとき、神を自分の勧告者また力強いやぐらとして選ばないとき、世俗の思想と邪悪な不信仰が、どれほどすみやかに入り込み、むなしい自信と哲学がへりくだった信頼する信仰とに取って代わることか。ひとびとは自分自身をイエスから引き離すために、しばしば誘惑がまことの羊飼いの声であるかのように大切にされる。……

人生におけるどのような立場を占めようとも、自分の仕事がどのようなものであろうとも、わたしたちは助けの必要を感じるくらい十分謙遜でなければならない。神のみ言葉の教えに絶対的に頼み、万事において神の摂理を認め、わたしたちの魂を祈りの中で注ぎ出すことに忠実でなければならない。(教会への証 5 巻 426、427)

永遠の約束

「神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。」(ヨハネ第一 5:11、12)

今はわたしたちにとって永遠のためのたしかな働きをするときである。キリストはわたしたちのために嘆願しておられる。わたしたちは自分自身を自由意志による、受け入れられる供え物として捧げないのだろうか。わたしたちは罪を覆い隠すのであろうか、それともあらゆる必要なときの助けとしてあわれみと恵みを見出すことができるために罪を告白するのであろうか。キリストがわたしたちのために嘆願しておられる間に、わたしたちはあれほどの大きな苦しみと死を神の御子に与える原因となった罪を捨て去り、ひどく嫌わないのであろうか。イエスがわたしたちに同情を示しておられる間にわたしたちは自分自身に同情を示さないものであろうか。悔い改めと悔悟の内に自分の魂を注ぎ出し、新しい心の約束を受け入れないのであろうか。「東が西から遠いように、主はわれらのとがをわれらから遠ざけられる」と神は仰せになる(詩篇 103:12)。

もしあなたが律法をほんのわずかでも犯しているのなら、神に対して罪を犯しているのであり、その怒りのもとにいる。あなたは神のあわれみを受けることができる。もしあなたがそのために嘆願するならそれを手に入れる。このお方のあわれみと同情にすがって、ありのままあなた自身を投げ出しなさい。信仰によって神をつかまえなさい。すべての利己心、食欲を捨て、信仰によってイエスの血であなたの魂を道徳的汚れから清めなさい。岩なるお方の上に落ちて砕ける一人びとりに十分で無償の救いが提供されている。主よ、主よと言っている者は多くいるが、彼らは自分自身の自己義を信賴している。彼らは日々罪を行っている。彼らは神に名誉を帰さない。行くところどこでも彼らは悪のパン種のようなからである。

あなたはなぜ罪をやめないのだろうか。神と協力するならあなたは打ち勝つことができる。キリストの約束は確かである。(世界総会冊子 1899 年 10 月 1 日)

キリストを信じる人々は、自分が信じているお方から自分の動機之力と自分の品性の織物を引き出す。(神のむすこ娘たち 299)

カルバリーの人を掲げなさい。このお方の愛を語り、その力を話しなさい。無限の価を払ってあなたのために買い求めた永遠の命という賜物を、あなたがありがたく思っているかどうかを知ろうと、全宇宙が見つめている。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889 年 4 月 8 日)

「信心があって足る」

「信心があって足ることを知るのは、大きな利得である。」(テモテ第一 6:6)

強欲に利得を求めることを減らし、自分にかまうのを減らしなさい。私心のない情け深い気高い行為によって、あなたの神に似た男らしさ、あなたの気高い女らしさを取り戻しなさい。あなたの以前の貪欲な精神を心から嫌悪し、魂の真の気高さを再び得なさい。神がわたしに示してくださったことから、あなたが熱心に悔い改めないかぎり、キリストはあなたを口から吐き出される。……

真理を信じ、神の御子の品性と生涯を熟考していると公言するすべての者にわたしは訴える。このお方はわたしたちの模範である。その生涯には私心のない情け深さが目立っていた。人間の悲哀に絶えず同情の念を起こし、良い働きをしながら、巡回された。このお方の生涯全体に利己的な行動は一つもなかった。(教会への証1巻 482)

誇りによって、男女は、ある特定の方法で兄弟もしくは姉妹に奉仕することは地位を下げることになりがちだとの立場を取るようになる。しかし、いわゆる使用人の立場と言われるところで奉仕することは、説教壇から奉仕するのと同じように賞賛に値するものである。家の中でなさなければならない義務を果たすことに地位を下げるようなものではなく、はしためや僕にさせるような義務を申し分なく完璧になしえることは、卑しいことではない。物事に対する正しい見解を取るなら、良い僕であることが自己尊重を傷つけるようなことは決してない。

しかしあなたが主のみ働きのどの枝であっても恥じるところのない、快く教えを受け、学ぶ用意ができており、自分の働きに忠実で、力と能力において絶えず向上しつつ錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めなければならぬ。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 5 月 15 日)

家を飾るために、いろいろなものを無理に得ようとして骨折ったりするよりも、神が尊ばれるもの、すなわち柔和で穏やかな精神を大切にしていけたら、そのほうがどれほど良いであろう。単純さ、柔和、そして真の愛情は、どんなに質素な家庭であっても、そこを天国にする。平和と安らぎを失うより、どんな不自由でも喜んで耐えるほうがいいのである。(家庭の教育 136、137)

どのような境遇でも

「わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。4:13 わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。」(ピリピ4:11～13)

あらゆる面で悩まされ、困らされ、迫害を受けたパウロが彼の試練を軽い患難と呼ぶことができるのであれば、今日のクリスチャンはつぶやくことが何かあるであろうか。パウロの多くの患難に比べてわたしたちの試練はどれほど取るに足りないものであろうか！打ち勝つものを待っている永遠の重い栄光に比べると価値はない。試練は品性を完成するために定められた神の職人である。クリスチャンの損失と苦しみがどれほど大きくても、摂理の道が暗く不可解に見えても、すべては自分の益のためにはたらいていることを知って、彼は主にあって喜ぶべきである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 5 月 6 日)

あなたの境遇がどうであっても、摂理の道が暗く神秘的であっても、その道が深い水の中を通っていても、試練や死別が幾度も悩まして、「万事は神を愛する者のために善となるよう共に働く」という保証がある(ローマ8:28)。「わたしは自分の信じてきたかたを知っており、またそのかたは、わたしにゆだねられているものを、かの日に至るまで守って下さることができると、確信しているからである」(テモテ第二1:12)(セレクトッド・メッセージ2巻261)

ささいな義務を行うにあたって忠実でないかぎり、だれも大きく重要な働きに適したものととはならない。成就すべき務めにふさわしい努力とエネルギーを発揮するために品性が形作られ、魂が訓練されるのは、漸進的である。わたしたちが境遇に左右される者であればクリスチャン品性を完成するのに必ず失敗する。あなたは境遇に打ち勝ち、境遇があなたを征服するのを許してはならない。あなたはキリストの十字架に力を見出すことができる。あなたは今だんだんと成長し、困難を克服し、習慣の力を打ち破ることができる。あなたはイエスの命を与える力によって鼓舞(こぶ)される必要がある。(教会への証3巻46、47)

試練という賜物

「このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」(コリント第二 4 : 17)

ポートアイランドに滞在中・……わたしを一生虚弱にした事故に会ったその場所を含む、自分の幼年時代に関連した特別に関心のある場所を、わたしはいくつか訪問した。しばらくの間負うのが非常につらく困難に思えたこの災難は、姿を変えた祝福であることが分かった。地上の喜びを妨げた残酷な一撃はわたしの目を天へ向ける手段であった。イエスの内に慰めを求めるようにとわたしを導いた、幼年時代を暗くした悲しみがなかったなら、わたしはこのお方を決して知ることはできなかったはずである。

鳥かごが明るいところにあると、小鳥は主人が教えたいと思う歌を決して歌うことはないということを讀んだことがある。小鳥は歌を聞き、その断片を学びさえするが、別々の完全なメロディをさえすることは決してできない。しかし主人が鳥かごを覆い、暗くすると、小鳥は歌うべきその一つの歌を聴く。その歌を学び、完全なメロディを発するまで、その歌を歌おうと何度も何度も試みる。それから鳥かごの覆いを取ると、小鳥は明るい中でその後ずっとその歌を歌うことができる。神はこのようにご自分の被造物を取り扱われる。このお方にはわたしたちにお教えになりたい歌があり、わたしたちが悲しみの深い影のただ中でそれを学ぶとき、以後たえずそれを歌うことができる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 11 月 25 日)

わたしたちは将来自分のすべての試練が自分の救いにどれほど密接に係っていたかを、またどのようにこのしばらくの軽い患難が働いて、「永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させる」ようになったかを知る(コリント第二 4 : 17)。(彼を掲げよ 250)

試練は……わたしたちが神の子である証拠である。パウロは大きな患難を通ったが、天におられる御父が死んでおられるかのように望みを失うことはなかった。彼は苦難の中で喜んでいたが、それはキリストの苦しみにあずかることによってこのお方のかたちに変えられることを望んでいたからである。この信仰の英雄に彼自身のことを語らせなさい。「わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじ」る(コリント第二 12 : 10)。

たしかな勝利

「感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜ったのである。だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはない、あなたがたは知っているからである。」(コリント第一 15: 57、58)

悪い習慣に……打ち勝つために、あなたは祈りつつ見張らなければならない。あなたには働く時間がほとんどないのであるから、熱心かつ徹底的でなければならない。自分の力で十分であると感じてはならない。力ある征服者のみ名の内にのみあなたは勝利を得ることができる。他の人々との会話の中で神の厳格な裁きと処罰を長々と語る代わりに、このお方のあわれみと慈しみそして愛を語りなさい。そのみ約束に堅くすがりつきなさい。あなた自身の力では何もできないが、イエスの力強さにあつてあなたはすべてのことをすることができる。あなたがキリストの内にありキリストがあなたの内におられるなら、あなたは変えられ、再び新しくされ、聖化される。「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 15: 7)。キリストがあなたの内におられること、つまりあなたの心が碎かれ、従うものとなり、へりくだっていることを確かめなさい。神は碎けた悔いた者だけをお受け入れになる。天国は生涯続く辛抱強い努力をする価値がある。しかり、すべてに価する価値がある。(教会への証 4 巻 259)

一人の罪人が悔い改めて神のもとへ帰った知らせに天の宮廷の中で喜びがあることさえわたしたちが見ることができ、天使の堅琴をかなでる調べと共に賛美の歌が御座のまえに上るのを聞くことができるなら、わたしたちが行うようにと神が残しておられる働きに、わたしたちがこれほどまでに気乗りがしなく無関心ではないであろうに。(レビュー・アンド・ヘラルド 1882 年 7 月 18 日)

わたしたちは神から力を得て勝利につぐ勝利をするのであろうか、それとも自分の力で試してついには打ち負かされて退却し、むなしい努力によって尽きしてしまうのであろうか。自己が神に屈服するとき勝利は確実である。……

そしてわたしたちが祝福を得るとき、それを利己的に死蔵しないようにしよう。自分の得ている力を苦闘している同胞のだれかを助けるために用いよう。(ザ・サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1903 年 5 月 20 日)

他の人々に仕える機会

「わたしはまた主の言われる声を聞いた、「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがあります。わたしをおつかわしてください」。(イザヤ 6:8)

この時代のための真理を提示するのにわたしたちが必要としているのはもっと力ある者、もっとタラントのある者、もっと学識のある者ではなく、神と神が使わされたイエス・キリストの知識を持っている者である。個人的な敬虔さなどの働き人にも資格を与える。聖霊が彼を所有しており、彼の日々の思考、すべての活動がキリストの方針にそってなされるので、この時代のための真理が力となるからである。彼には内住しているキリストがおられる。最もへりくだってキリストにつながっている者は力があり、その働きは持続する。(家庭伝道 1897年11月1日)

多くの者が神への説明責任に気づいていない。彼らは主のものであるタラントをあつかっている。彼らは、正しい方面で用いるなら、自分をキリストと天使らとの共労者とする精神力を持っている。多くの者が、彼らの努力を通して救われ、彼らの喜びの冠の星として輝くのである。しかし彼らはこれらすべてのことに無関心である。サタンはこの世の魅力によって彼らを鎖につなぎ、その道徳力を麻痺させようと努力し、残念ながら首尾よく成功している。

キリストがそのために死なれた尊い魂に比較して家屋や土地はどれほどの価値があるであろうか。親愛なる兄弟姉妹方、これらの魂はあなたがたの尽力によって栄光の王国にあなたがたと共に救われることができる。しかしあなたがたは地上の宝をわずかといえどもそこへ持っていくことはできない。あなたがたが得ることのできるものを得なさい。そしてあなたが働かせることのできるあらゆる能力を用いてそれを保ちなさい。それでも命令は主から出るのであり、どのような技術も消すことのできない火はあなたの生涯をかけた蓄財を数時間ではかいすることができ、それらをくすぶっている廃墟の塊にすることができる。あなたがたは地上に宝を積み上げるために自分のタラントとエネルギーをすべて注ぐことができる。しかしあなたがたの人生が閉じるとき、あるいはイエスがみ姿をあらわすときそれらはなんの役に立つであろうか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1885年6月23日)

「印する働き」

第8課 印するメッセージに関する「新しい光」

1894 年になるまで、印する働きが進行しているかどうかについては、何の疑いもありませんでした。144,000 人の印する働きは、セブンスデー・アドベンチストの間で非常にしっかりと確立された教理でした。第三天使のメッセージの下に印された人々はみな、144,000 人に含まれると理解されていました。なぜなら、黙示録 7:1 ～ 4 によれば、その数だけが印されているからです。

そのころ、一人の兄弟がこの問題に関して「新しい光」を受けたと主張しました。先駆者の一人である J.N. ラフボロウ氏は次のように述べています。

「この書一印された 144,000 人の主題に関して、わたしはこの印するメッセージがどのようにして一聖書からだけでなく、また E.G. ホワイト姉妹の幻の中の直接の教えによって一得られたかという事実と、また 1894 年までわたしたちの牧師や人々がどのようにこのメッセージを受け入れ、教えていたかについて事実を記し、出版するようにと神の御霊に強く促された。この 1894 年に「新しい光」という理論を支持したのは、後に信仰を捨てて背教し、終りの時まで生きて 144,000 人の一人になるという自分の期待の成就を見ることなく死んだひとりの人であった。彼の主張というのは、ホワイト姉妹の後の証は 144,000 人はみな一度も死んだことのない人々で構成されていると教えている、というのであった。

わたしはだれかが、『印される 144,000 人はみな、今生きている人々です』と教えているのを見ると、今こそだれかが語らねばならない、そして神の預言者たちが、あるときは肯定的なことを述べておきながら、後になってそれと正反対のことを教えるということはないことを示すべきだと思うのである。たしかに聖書の預言者たちはそのような進路を取ってはこなかった。この「新しい光」全体は、文脈に関係なく、言葉を語られた事柄から切り離し、それらに一般的な言葉の適用をほどこすことによって作り出されたものである。……」（印するメッセージについての質問 p3, 4 (まえがき)）

ホワイト姉妹はこの「新しい光」について懸念し、次の証をしました。

「この分野においてこれまでわたしが果たさなければならなかった任務の中でもっともつらかったのは、わたしが知っている人で、主に従いたいと願っていた人を取り扱わねばならないことであった。彼は非常に病んでおり、まもなく死のうとしていた。そして、ああ、わたしの心は、彼のしていることを彼に伝えなくてもいいようにしてくれたらと、どれほど願ったことだろう。彼がその幻を提示した人々は、熱心に彼の話を聴き、ある人々は彼が靈感を受けたと思った。彼は図表を作成し、聖句から 1894 年の定まった時に主が来られると、わたしと考えていると示そうと説得した。多くの人々にとって、彼の推論は、非の打ち所がないように見えた。彼らは彼の病室で聞いた力強い忠告の言葉について話していた。最もすばらしい幻が彼の前をよぎった。しかし彼の靈感の源は何であったか。それは、彼の痛みをやわらげるために打たれたモルヒネであった。

わたしがオーストラリアに来る直前の、ミシガン州ランシングでの教会のキャンプミーティングで、わたしはこの新しい光について率直に語らなければならなかった。わたしは人々に彼らが聞いた言葉は靈感の真理ではないと述べた。

このように真理の様相で提示されたすばらしい光は、聖句を誤用した結果である。主の働きは 1894 年に閉じるのではなかった。わたしへの主の言葉はこうであった、『それは真理ではなく、異なる道に導くものである。そしてある人々はこの説明をめぐって混乱し、信仰を手放すことになるであろう。』（セレクトド・メッセージ 2 巻 p113)

この「新しい光」はセブンスデー・アドベンチストの指導者たちに受け入れられませんでした。1905 年に H.R. ジョンソン長老は、レビュー・アンド・ヘラルドの中で 144,000 人について長い記事を出版しました。これをこの本の後ろで再現しています。彼の記述には、もともとの教理が記されています。

数年後、まさにこの教えがふたたび、四半期の安息日学校ドイツ版の中で出版されました。1908 年 8 月 1 日に次のようにあります。

「ここから、わたしたちは主の来臨の時に、生きている聖徒として、すべての 144,000 人は、一度も死を見たことのない人々と、最後のメッセージが宣布されている間に死んだが、主の来臨の前によりみがえらされた人々からなってい



ることを認めることができる」。

L.R. コンラディ長老は、Los Videntes y lo Porvenir という彼の著書の中でもまた、144,000 人は一度も死んだことのない人々と、イエスの来臨の前によりみがえらされる人々からなっていると述べています。

「同じように、ある人々は、黙示録 7 章にしたがってイスラエルの数を満たす眠れる義人の中からよみがえるのである」(Los Videntes y lo Porvenir p271)。

しかしながら、144,000 人は一度も死ぬことのない人々だと主張する「新しい光」の一部は、今や広く受け入れられています。それはとくに安息日遵守者だと公言する人々の数が何百万と数えられているからです。

3 ページの続き

きょう、恵み深い神は罪びとに訴えておられる。「主なる神は言われる、わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない。むしろ悪人が、その道を離れて生きるのを喜ぶ。あなたがたは心を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。イスラエルの家よ、あなたはどのようにして死んでよからうか」(エゼキエル書 33:11)……

ああ人の心よ、キリストはあなたに愛の口調で今も語りかけておられる。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいつて彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」。「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である」(黙示録 3:20、コリント第二 6:2)。(祝福の山 184 ～ 189)

9 ページの続き

があります!ホセア 6:1 - 3 にある聖書の尊い約束を覚えましょう「さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。主は、ふつかの後、わたしたちを生かし、三日目にわたしたちを立たせられる。わたしたちはみ前で生きる。わたしたちは主を知ろう (yada[yaw-dah'] : 知るために学ぶ、経験によって知る、親しくなる)、せつに主を知ることを求めよう (radaph[raw-daf'] : 後につく、従う、追い求める、追いかける)。主はあしたの光のように必ず現れいで、冬の雨のように、わたしたちに臨み、春の雨のように地を潤される」。

「子とその行くべき道に 従って教えよ」

第38章 年令、性格、気質を考慮する



子供をせきたててはならない—親は決して子供たちをせきたてて、子供時代から追いたてたりしてはなりません。子供たちに与える教訓は、心に気高い目的をいだけさせるような性質のものでなければなりません、しかし、子供らしい心を失わないようにさせ、天のみ国に入る備えをさせるあの単純な信頼と率直さ、そして真実さをもって成長するようにさせたいものです。

それぞれの時期にふさわしい美しさがある—親や教師は、少年少女たちが人生の各段階において、庭の植物が自然に花を開いて、その時期にふさわし

い美しさをあらわすように、彼らの傾向を指導するように心がけるべきです。

キリストの最も美しく感銘深いたとえ話の一つは、種まく人と種のたとえです。……このたとえが教える真理は、キリストご自身のご生涯に、生きた現実となっていました。キリストは霊肉共にそのご性質において、植物によって示されている天来の成長の法則に従われました。そして主は、すべての青少年がそうするよう望んでおられます。主は天の大いなる君、栄光の王であられましたが、ベツレヘムのみどりごととなられ、しばらくの間、母親の保護の下にある無力な幼な子そのものでした。

子供時代、イエスは従順な子供として生活されました。おとなの知恵ではなく子供の知恵をもって語り、行動されました。両親を敬い、子供としての自分の能力に応じて、役に立つ方法で両親の願いを実行されたのです。イエスはその成長の各段階において完全であられ、罪なき生活の単純さと自然な美しさをもっておられました。聖書の記録はイエスの子供時代について、「幼な子はますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがおの上にあった」と述べ、またその青年時代については、「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」と記しています(ルカ 2:40、52)。

家族の中の気質の相違—同じ家族でも、お互いの気質や性格がそれぞれ非常に違っているということがよくあります。いろんな気質の人たちが共に交わるということが神のお考



えだからです。ですからこういう場合、家族のひとりびとりが、お互いの感情を大事にし、お互いの権利を尊重しなくてはなりません。こうすることによって、互いの思いやりと忍耐が養われ、偏見がやわらげられ、品性の粗野なところがみがかれていきます。そしてそこに調和が得られ、多種多様の気質の人がまざり合うことによって、互いに益となりうるのです。

ひとりびとりの考え方と性格を研究する—子供が生まれることは、親の責

任が増えることを意味します。……子供たちの気質、傾向、性格の特徴などが研究されなくてはなりません。親は、子供たちの悪い傾向を抑え、正しい感覚と正しい原則を育てることができるよう、自分の識別力を注意深く養う必要があります。この仕事に暴力や厳しさは必要ではありません。親は自制心を養い、それを子供の精神や心に印象づけねばなりません。人間の心を扱うことは、本当にデリケートな仕事です。子供たちをみな同じように扱うことは不可能です。ある子供には抑制が必要であつても、他の子供にとっては、抑制はその子をおしつぶしてしまうことになる、という場合があるからです。

弱いところを強くし、悪いところを抑える—悪いことに、親が子供の弱いところを強くし、悪いところを抑えるという務めを怠るために、調和のとれた精神を持っている子供は少ないものです。親たちは自分たちが、子供たち一人一人の傾向を見守るという最も厳粛な責任を負わされていること、また、子供たちに正しい習慣をつけ、正しい考え方をしよう訓練するのが、自分たちの義務であることを忘れています。

子供たちのそれぞれの気質を知る—子供には不断の注意が必要ですが、親がいつも見守っているということをお子に知らせる必要はありません。子供同志の交わりに現われるそれぞれの性向を知ってから、その欠点を正して反対の特質を育てよう努めなさい。知力と体力の発達はどちらも自分次第であること、それは努力の結果であることを、子供に教えてやらねばなりません。利己的な楽しみにふけつても幸福は得られないこと、しなければならぬ務めを果たしていくことの中にこそ幸福があることを、子供たちは早くから学ぶ必要があります。それと共に、母親は子供たちを幸福にする努力をしなくてはなりません。

心の必要は体の必要と同じように大切—子供たちの直接的な必要には注意深く世話を焼く親たちがいます。子供が病気のときは親切にまた献身的に看護し、そしてそれですべきことはしたと考えるのです。しかしそこが間違っています。仕事はまだ始まったばかりです。心の必要に気を配ってやらねばならないのです。正しい治療を施して、傷ついた心をいやしてやるには、熟練を要します。

子供たちにも大人たちと同じよう



に、やっかいな、つらい試練というものがあります。親自身、いつも同じ気持ちでいられるわけではありません。どうしてよいかわからなくて、心を悩ますことがしばしばです。いろいろ誤解されて苦しむこともあります。サタンに打ちめされ、誘惑に負けます。こうして親たちはイライラした話し方をしては、子供たちの心に腹立たしい気持ちを起こさせてしまいます。またやかましく、怒りっぽい時もあります。かわいそうに、子供たちは親と同じような気持ちになるのですが、親には子供たちを助けてやる用意ができていません。なぜなら問題を引き起こしたのは親自身だったからです。何もかも、うまくいかないように見えるときが、時々あります。どこを見てもイライラすることばかりで、みんながみじめで不愉快な思いをします。そんなとき親はその責任を、かわいそうに、子供たちに負わせます。まったく言うことをきかない、手に負えない子供たちだ、こんな悪い子供たちはどこを探してもいないだろうと考えるのです。しかし、本当の原因は、親自身にあるのです。



優しい、人に好かれるような人間に一バランスのとれていない心、短気、いらだち、羨望、ねたみなどは、親の怠慢を証明しています。こういう悪いところを持っていると、非常に不幸になります。もっと優しくて人に好かれるような性質だったら、仲間や友人たちから愛されたはずなのに、なんと多くの人たちが、失敗していることでしょう。行く先々で、何をしても問題を起こす人が、なんと多いことでしょう。

気質に応じて違ったしつけが必要—子供たちはそれぞれ違った気質を持っています。ですから親は、いつもみんなを同じやり方でしつけられるとはかぎりません。子供たちの心の特質も皆違ってきます。子供たちが神の計画なされた目的を果たすよう形造られていくためには、子供たちの心の特質を祈りをもって研究しなくてはなりません。

お母さんがた、……時間をかけて、子供たちのことをよく知るようになさい。子供たちをどう扱ったらよいかを知るために、性質や気質を研究するのです。

ある子供たちにはほかの子供たちよりもっと注意が必要です。

望みがないように見える子供の扱い方—他の子供たちよりもっと根気よくしつけ、もっと親切に訓練してやらねばならない子供たちがいます。こういう子供たちは、見込みのない特質を受けついだのです。そしてそれだからこそ、余計同情と愛が必要なのです。しんぼう強い努力によって、こういう気まぐれな子供たちも、主のお働きに加わる準備をすることができます。こうした子供たちは、まだ開発されていない能力を持っていることがあります。それが呼び覚まされるなら、もっと期待されている人たちよりも、さらに進んだ役割を果たすことができるようになります。

もしあなたに、普通とは違った気質の子供たちがいても、そのためにその子供たちの一生に失望の影を投げかけたりしないようにしてください。……忍耐と同情を発揮して、子供たちを助けてやりなさい。彼らが性格上の欠点を克服できるよう、やさしい言葉と親切な行為で子供たちを力づけてやりなさい。

考えている以上に訓練できる—母親は、イエスを愛するようになるとすぐ、子供たちをイエスのために訓練したいと思うようになるものです。あなたは、子供が本当に小さいころから、あなたが考えている以上に子供の性質を訓練することができます。イエスの尊い名が、家庭でいつも唱えられねばなりません。



「健康と幸福」

第12章 失業者や家がない人への助け (I)

世の中には貧しい人の状態を憂慮し、彼らを助ける手段を考えている博愛精神の持ち主がいる。失業者や家がない人が神の摂理にもとづく一般的な祝福を得、神が計画されたとおりに生活を営むことができるように彼らをどうして援助するかということは、多くの人が解答を求めて熱心に努力を払っている問題である。しかし、社会の現状の根底に横たわっているその原因を理解している人は教育家、政治家たちの中でも少ない。政府当局者も貧困、窮乏、犯罪増加の問題を解決することができない。彼らは経済機構をさらに完全な基礎の上におこうとして、むなしい努力を払っている。

もし人が神の言葉の教訓にもっと注意するならば、自分たちが困っているこうした問題の解決を発見するだろう。労働問題や貧困者の救済に関して旧約聖書から多くのことを学ぶことができる。

イスラエル人に対する神の計画

イスラエル人に対する神の計画は各家族が十分に耕作しうる面積がある土地に家を持つことであった。こうして有益勤勉な自給自足の生活への手段と動機が与えられた。それ以来、人間が考えたどの考案も、この計画以上に進歩を示したものはなかった。今日現存する貧困と悲惨は、社会がこの計画から



離反したことに大いに原因している。

イスラエル人がカナンに定住するにあたり、全員に土地がわけられ、レビ人だけが聖所に奉仕する者としてその平等分配から除外された。各種族は家族数が計算され、各家族はその人数にしたがって財産が分配された。

また一時的に所有物を処分することができても、その子供に与えるべき財産を永久的に売り払うことはできなかった。自分の土地を買いもどすことができるようになればいつでも自由にできたのである。借財は七年ごとに免除され、五十年目、すなわちヨベルの年にはすべての土地が最初の持ち主に返済された。

「地は永代には売ってはならない。地はわたしのものだからである。あなたがたはわたしと共にいる寄留者、また旅びとである。あなたがたの所有としたどのような土地でも、その土地の買いもどしに応じなければならない。あなたの兄弟が落ちぶれてその所有の地を売ったときは、彼の近親者がきて、兄弟の売ったものを買いもどさなければならない。たといその人に……それを買ひもどすことができるようになったならば……その所有の地に帰ることができる。しかし、もしそれを買ひもどすことができないならば、その売った物はヨベルの年まで買い主の手にあり、ヨベルにはもどされて、その人はその所有の地に帰ることができるであろう」(レビ記 25:23—28)。

「その五十年目を聖別して、国中のすべての住民に自由をふれ示さなければならない。この年はあなたがたにはヨベルの年であって、あなたがたは、おのおのその所有の地に帰り、おのおのその家族に帰らなければならない」(レビ記 25:10)。

こうして各家族はその持ち物が確保され、富豪と貧困の極端を防ぐ予防法

が与えられていた。

実業訓練

イスラエル民族の中では、実業教育が義務とみなされていた。父親はむすこに一定の有益な職業を教えるように命じられていた。イスラエルの最大の人物でも実業につけるように教育を受けた。家政に関する義務の知識は婦人にとって必須とされていた。そして、これらの本務に巧みであるということは、最高の地位にある婦人の誉とされていた。

各種の実業が預言者の学校で教えられ、生徒の多くは労働をして自給していた。

貧困者に対する考慮

しかし、こうした手段も貧困を完全になくさなかった。貧困者が完全になくなるということは神の計画ではなかった。それは品性を発達させるための神の一手段である。「貧しい者はいつまでも国のうちに絶えることがないから、わたしは命じて言う、『あなたは必ず国のうちにいるあなたの兄弟の乏しい者と貧しい者と共に、手を開かなければならない』と、神は申されている（申命記 15:11）。

「あなたの神、主が賜わる地で、もしあなたの兄弟で貧しい人がひとりでも、町の内におるならば、その貧しい兄弟にむかって、心をかたくなにしてはならない。また手を閉じてはならない。必ず彼に手を開いて、その必要とする物を貸し与え、乏しいのを補わなければならない」（申命記 15:7、8）。

「あなたの兄弟がおちぶれ、暮して行けないときは、彼を助け、寄留者または旅びとのようにして、あなたと共に生きながらえさせなければならない」（レビ記 25:35）。

「あなたがたの地の実りを刈り入れるときは、畑のすみずみまで刈りつくしてはならない。またあなたの刈り入れの落ち穂を拾ってはならない」（レビ記 19:9）。

「寄留の他国人または孤児のさばきを曲げてはならない。寡婦の着物を質

に取ってはならない。……あなたが畑で穀物を刈るとき、もしその一束を畑におき忘れたならば、それを取りに引き返してはならない。それは寄留の他国人と孤児と寡婦に取らせなければならない。……あなたがオリブの実をうち落すときは、ふたたびその枝を捜してはならない。それを寄留の他国人と孤児と寡婦に取らせなければならない。また、ぶどう畑のぶどうを摘み取るときは、その残ったものを、ふたたび捜してはならない。それを他国人と孤児と寡婦に取らせなければならない」(申命記 24:17—21)。

惜しみなく与えると、貧しくなってしまうと心配する必要はない。神の律法に従えばその人は必ず栄える。「あなたの神、主はこのことのために、あなたをすべての事業と、手のすべての働きにおいて祝福されるからである」(申命記

15:10)。「あなたは多くの国びとに貸すようになり、借りることはないであろう。またあなたは多くの国びとを治めるようになり、彼らがあなたを治めることはないであろう」(申命記 15:6)。

商業の原則

神のみ言葉は、他の階級を圧迫し苦しめて一つの階級だけが豊かになる政策を許していない。商業上の取引においては、いっさい相手の側に自らを置き、自分のことだけを考えず、他人のことを考えるように教えられている。自分を益するために他人の不幸を利用し、あるいは他人の弱点や無能力によって自分の利益を求める人は、神のみ言葉の原則も教える破るものである。

「寄留の他国人または孤児のさばきを曲げてはならない。寡婦の着物を質



に取ってはならない」(申命記 24:17)。「あなたが隣人に物を貸すときは、自分でその家にはいって、質物を取ってはならない。あなたは外に立っていて、借りた人が質物を外にいるあなたのところへ持ち出さなければならない。もしその人が貧しい人であるときは、あなたはその質物を留めおいて寝てはならない」(申命記 24:10-12)。「もし隣人の上着を質に取るならば、日の入るまでにそれを返さなければならない。これは彼の身をおおう、ただ一つの物、彼の

膚のための着物だからである。彼は何を着て寝ることができよう。彼がわたしにむかって叫ぶならば、わたしはこれに聞くであろう。わたしはあわれみ深いからである」(出エジプト記 22:26、27)。「あなたの隣人に物を売り、また隣人から物を買うときは、互に欺いてはならない」(レビ記 25:14)。

「あなたがたは、さばきにおいても、物差しにおいても、はかりにおいても、ますにおいても、不正を行ってはならない」(レビ記 19:3)。「あなたの袋に大小二種の重り石を入れておいてはならない。あなたの家に二種のますをおいてはならない」(申命記 25:13、14)。「あなたがたは正しいえびん、正しいおもり石、正しいエパ、正しいヒンを使わなければならない」(レビ記 19:36)。

「求める者には与え、借りようとする者を断るな」(マタイ 5:42)。「悪しき者は物を借りて返すことをしない。しかし正しい人は寛大で、施し与える」(詩篇 37:21)。

「相はかつて、事を定めよ、真昼の中でも、あなたの陰を夜のようにし、さすらい人を隠し、のがれてきた者をわたさず……さすらい人を、あなたのうちにやどらせ……滅ぼす者からののがれさせ」(イザヤ書 16:3、4)。

神がイスラエルにお与えになった生活の計画は全人類への実物教訓となるべきものであった。もし、これらの法則が今日実行されていたら、この世界はどんなに違った場所となっていたことであろう。



ティラミス

材料

スポンジケーキ

材料 A

- a. 全粒薄力粉：3/4 カップ
- b. 全粒強力粉：3/4 カップ
- c. ベーキングパウダー：小さじ 1・1/2
- d. 塩：小さじ 1/4

材料 B

- e. 紅花油：1/3 カップ
- f. メープルシロップ：1/2
- g. 豆乳：1 カップ
- h. バニラエッセンス：小さじ 1

クリームフィリングの材料

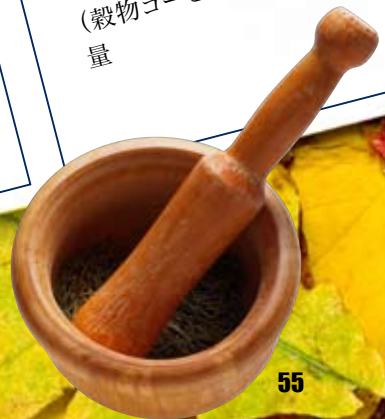
- i. 皮むきアーモンド：1/2 カップ
- j. 豆乳：1/2 カップ
- k. 甘酒：1/2 カップ
- l. 寒天パウダー：小さじ 1
- m. 塩：小さじ 1/8
- n. 穀物あめ（水あめ）：1/4 カップ
- o. メープルシロップ：大さじ 2
- p. 葛（豆乳 3/4 カップで溶いたもの）：大さじ 2

コーヒースロップの材料

- q. 熱湯：1/3 カップ
- r. 穀物コーヒー：1/4 カップ
- s. メープルシロップ：大さじ 1

トッピング

- t. 黒いり玄米粉（穀物コーヒーでもよい）：適量



作り方

オーブンを180℃に温め始める。天板(31×22cm以上)に紅花油(分量外)を塗り、オーブンシートを敷く。

ボウルに材料Aと一緒にふるい入れ、泡立て器で混ぜ合わせる。別のボウルに材料Bを入れて泡立て器で混ぜ、Aを加えて混ぜる。このとき混ぜすぎないように注意する。

1)の天板に2)を流し入れ、パレットナイフで表面をならし、オーブンで15分焼く。

さめたらスポンジの上部(スポンジ表面の乾いた部分)を切り落とす。

残った下部を14×11cm(※)の大きさに2枚に切る。

皮むきアーモンドをフードプロセッサーに約1分かけ、パウダー状にして豆乳と甘酒を加え、さらに1分よくかくはんする。

5)を目の細かいこし器でこして鍋に入れ、寒天パウダー、自然塩、甘味料を加え、中火で混ぜながら煮る。煮立ったら火を止め、ボウルかトレイに移し、そのまま室温において固める。

鍋に葛を入れ、弱火で絶えず混ぜながら、とろみがつくまで煮る。

固まった6)と7)をフードプロセッサー、またはミキサーに入れ、なめらかになるまでよくかくはんする。

コーヒースロップの材料をボウルに入れ泡立て器でかくはんする。

14×11cm(※)の流し缶にスポンジ1枚を底の固い面を上にして入れ、ハケなど使いコーヒースロップをしみ込ませる。8)のクリームの半量をのせ、もう1枚のスポンジと残りのクリームを同様にして重ね、冷蔵庫に6時間入れて冷やし固める。クリームとコーヒースロップはソース用に少量とっておく。

取り分けたクリームとコーヒースロップを混ぜ、ソースを作る。10)の上に黒いり玄米粉(または穀物コーヒーマル)を茶こしに入れてふり、流し缶から出して切り分ける。

皿にソースを流し、ティラミスのをのせて完成。

※この数値にこだわる必要はなく、容器の大きさに合わせて切っていただければよい

ものを全部渡してしまい、自分の馬が連れて行かれるのを見てからはじめて、カントは命乞いをしました。

「全部、よこしたのか？」脅かしながら、強盗が叫びました。「もう金はないのか？」

驚きと恐怖で、震える博士は、自分の持っているコインは、全部渡したと答えました。そしてこの保証を得て、彼は旅を続けることを許されました。

すぐに彼は旅路を急ぎ、逃れたことを喜んでいたとき、突然、彼の手が服の縁に何か固いものを感じました。それは、服の裏地に縫いこまれていたために発見を逃れた彼の金でした。驚きのあまり、この善良な人は、この秘密のたくわえを忘れていたのです。そこで、彼の心はふたたび喜びで胸がわくわくしました。なぜなら、このお金があれば、彼は自分の友人や親類のいる故郷へ帰ることができるでしょう。道中、乞い歩きながら、長く苦しい放浪の旅をする代わりに、休息と宿を得ることができるでしょう。しかし、彼の良心は特別に敏感でした。そして、突然、彼はその声を聞くために立ち止まりました。それはとても無視できないような調子でこう叫んでいました、「嘘をついてはならない！嘘をついてはならない！」これらの言葉は彼の心のうちで燃えていました。喜び、親類、家のことはみな忘れてしまいました。ある著者は道徳的哲学について、あのような状況の下でなされた約束に拘束力はないと考えます。また、たしかにそのような状況で良心のとがめに悩む人はほとんどいません。しかし、カントはいろいろ考えてみようとはしませんでした。彼は急いで自分が来た道を引き戻し、まだ同じ場所にいた強盗たちの中へ入って行って、素直に言いました、「わたしは真実でないことを言っていました。しかし、わざとではなく、恐れと不安とで混乱していたのです。ですから、お許しください」。

こう言いながら、彼は輝く金を差し出しました。しかし、彼が驚いたことは、強盗たちのうちだれ一人としてそれを取ろうとしませんでした！彼らの心のうちには不思議な気持ちが働いていました。彼らはこの信心深い人を笑いませんでした。彼らの内で「あなたは盗んではならない」という声が

しました。みな^{ふか かんどう}深く感動していました。そのとき、^{しょうどう}衝動にかられたように、
一人^{ひとり}が行って彼の^い財布^{かれ}を返^{さいふ かえ}しました。別の^{べつ}人が^{ひと}祈^{いの}りの書^{しよ}を戻^{もど}しました。ま
たさらに別の^{べつ}人が^{ひと}彼の^{かれ}馬^{うま}を彼の^{かれ}ところ^つに連^つれてきて、彼^{かれ}がもう一度^{いちど}その上^{うえ}
に^の乗^{たす}るのを助^{たす}けました。そのとき、彼^{かれ}らは一致^{いつち}して彼の^{かれ}祝福^{しゆくふく}を請^こいました。
おごそかに祝福^{しゆくふく}した^{あと}後、この^{ぜんりよう}善良^{ろうじん}な老人^{じぶん}は自^{たび}分の^{つづ}旅路^{かれ}を続^{たび}け、彼^{かれ}を旅^{たび}の
終^おわり^{ふじ}まで無^つ事に連^{かえ}れ帰^{かえ}ってくだ^{かみさま}さった^{みもと}神^{こころ}様^{かんしや}の御^お許^{もと}に心^{こころ}をあげて感^{かん}謝^{しゃ}した
のでした。

INFORMATION

教会のご案内

【正丸教会】 〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1 電話：0494-22-0465

【高知集会所】 〒780-8015 高知市百石町 1-17-2 電話：088-831-0526

【沖縄集会所】 〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21 電話：0980-55-8136

毎週土曜日教会プログラム

※毎週土曜日に礼拝しています。

安息日学校：9:30-10:45

礼拝説教：11:00-12:00

午後の聖書研究：14:00-15:00

無料聖書通信講座のご案内

※無料聖書通信講座を用意しております。

是非お申し込み下さい。

☐初級コース ☐聖所真理

「聖所真理」お申込先：〒350-1391
埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

イベントのご案内

キャンプ・ミーティング 2010 年 1 月 8 日(金)～11 日(月) 正丸教会 主題：「主の預言者を信じなさい」
参加お申し込み：正丸教会まで(上記)

書籍のご案内

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

ホームページのご案内

<http://www.4angels.jp>

礼拝説教(毎週土曜日 11:00-12:00)
や聖書研究をビデオで公開しています。
その他、書籍のご案内、イベントの紹介など。

メールのご案内

support@4angels.jp

永遠の真理

Eternal Truth

発行日 2010 年 1 月 1 日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：Sermon View p. 3, 6 Design Pix
p. 4 Higher Clips p.8 Getty Images p. 9,
10, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 53, 54, 55, 60
Istock.com p.51, 55 Datacraft Sozaijiten p.
56 GT p. 43

ごとう
強盗を
しゆくふく
祝福した

はかせ
カント博士

ジョン・カントは、クラクフの神学の教授であり、博士でした。彼は特別に優しく、誠実な精神を持った信心深い人で、どんな時でも悪を働くよりは、悪に耐えることを選ぶ人でした。長い年月の間、彼は神様に任じられた場所で、霊的な教師として自分の務めを良心的に果たしてきました。彼が若い年月を過ごした生まれ故郷のシレジアをもう一度訪れたいという熱い願いにかられたとき、彼の頭は、高齢の雪におおわれていました。その年齢では、旅は危険にはらんだもののようには思われました。しかし、彼は旅の準備をととのえ、そして自らを神様のみにゆだねて、旅を始めました。彼はゆっくりと馬を進め、当時の服装にしたがって、黒い衣服を身にまとい、長い髪と長いひげをたくわえていました。それから、彼は日光のほとんど差し込まないポーランドの薄暗い森を通って、自分の道を進んでいきました。しかし、彼の魂のうちは光がありました。なぜなら、神の御霊が光を照らしていたからです。

ある晩、彼はこのように旅を続け、神様と交わりながら、自分の横にいる存在に注意を払わずに、深い森の入り口に着きました。そこで突然、彼は足音を聞いたと思ったら、あっという間に馬に乗った人や立っている人に囲まれてしまったのです。ナイフや剣が月明かりにきらめいていました。そして信心深い人は、自分が強盗の一団の手におちいったことに気づきました。どうなったのかかわからないほど気は遠くなり、彼は自分の馬から下りて、自分の持っているものをギャングに差し出しました。彼らに銀貨がつまった財布をわたし、自分の首から銀の鎖をはずし、自分の帽子から金モールを取りはずし、指から指輪をとりました。そして自分のポケットから銀の留め金のついた祈りの書を取り出しました。自分の持っている